ライオン誌（毎月20日発行）第52巻第7号 2009年12月20日発行 第3種郵便物認可

LION

WWW.THELION-MAG.JP JANUARY 2010 1

THEME ライオンズクエスト

2000年のパイロット事業スタートから10年。
全国各地でプログラムの普及が急速に進む中、
単一クラブで学校導入を果たした事例をルポ。

ライオンズクエスト・プログラムの25周年を祝おう

ライオンズクエストは1984年のプログラム開始以来、今年で記念すべき25周年を迎えました。現在までに世界50カ国、1,100万人以上の青少年が、このプログラムによってライフスキル（生きる力）を学んでいます。日本でも2000年のパイロット事業スタート以来、北は北海道から南は九州・沖縄まで、多くの地区でプログラムが実施されています。

THE LION MAGAZINE IN JAPAN
January 2010, Vol.52 No.7

We Serve CONTENTS

2010年1月号　表紙
鳥取県大山町
剣ケ峰

■詳細はウェブマガジンで
https://www.thelion-mag.jp

●『ライオン』誌日本語版は今月号からリニューアルしました。詳しくは25㌻をご覧ください。

ライオンズは子どもたちの味方

ドイツ語で子どもたちを表す言葉は「キンダー」。メキシコでは「ロスニニョス」と表現します。韓国語では「アドン」。アメリカやカナダでは、「チルドレン」です。どの国にとっても、子どもたちは世界で最も大切な財産です。そしてライオンズクラブは92年もの歴史を通じて、子どもたちを育み、慈しみ、保護してきました。失明や病気から子どもたちを守り、学校を建て、ライフスキルを教えています。また、食べ物や衣類を提供したり、キャンプを主催して異文化に触れさせたり、身をもって奉仕の大切さを示しています。そう、私たちは「盲人の騎士」ですが、子どもたちの味方でもあるのです。

子どもたちのためにライオンズが行っていることに誇りを持ってください。皆さんのおかげでこれらは実現しているのです。皆さんの奉仕によって、世界の子どもたちはさまざまな選択肢と機会に恵まれた健全な成長を遂げているのです。私は赤ちゃんを見るたびに、命とは自然の奇跡だと確信します。あなたが誰かの親であったり、叔父や叔母であったり、他者を深く思いやる人であれば、子どもが社会に順応して健全に育つことは、それ自体が驚くべき奇跡だということをご存じでしょう。それは特に、貧困に苦しむ境遇にいる子どもたちについて言えることです。チェコ共和国のプラハで10月にライオンズ世界視力デーが開催された際、私は、成功を収めた数々の児童視力検査の行事に出席しました。何と言ってもライオンズは、子どもたちを助けることに献身的です。それも視力だけでなく、教育と健康管理にも力を入れています。

よい年末をお過ごしください。そして新年をお迎えになるに当たり、恵まれない人々への奉仕の決意を新たにしてください。

2009-10年度国際会長
エバハルト・J・ヴィルフス

THEME Ⅰ

ライオンズクエスト

25周年を迎えたライオンズクエスト･プログラム。日本でも2000年のパイロット事業スタートからちょうど10年。現在、全国各地でプログラムの普及が急速に進む中、学校導入を果たした単一クラブの事例を紹介すると共に、プログラム説明員を務める会員に課題と展望を聞く。

単一クラブでも実現出来るライオンズクエスト学校導入

これまで日本各地でいくつものライオンズクエスト・プログラムの学校導入が実現している。LCIFの四大交付金を使って地区主導で動く事業の一方で、学校との二人三脚で地道に汗を流す単一クラブによる導入事例も目立つ。今回は、過去に本誌で紹介した四つのクラブの取り組みを振り返り、彼らが得たノウハウから、単一クラブで学校導入を成功させる方法を探っていく

文／砂山幹博（ルポライター）

PTAを巻き込んでプログラム導入をスムーズに

2005年9月、埼玉県・秩父中央ライオンズクラブ（町田啓介会長／37人）はクラブのアクティビティとして、ライオンズクエスト・プログラムの全学年一斉導入を実現させた。プログラムの導入先である秩父第一中学校は、市内の中学生の35％が通う県内有数のマンモス校。各学年に7〜8クラスあり、生徒数は800人を超える。大型校へのアプローチという点も注目されたが、単一クラブのアクティビティとしては初めてのモデル校誕生であった。

2003年、秩父中央ライオンズクラブは330・C地区ライオンズクエスト委員に就任したライオン大嶋洋一が中心となって、学校への働きかけを始めた。同時に現場のトップである校長に対して、直接発言出来るPTAにも話を持っていった。歴代のPTA会長が同クラブ・メンバーであったという点も有利に働き、翌04年、PTA主催のライオンズクエスト体験会が開催された。

この体験会にはPTA役員はもちろん校長や教頭、教員ら28人が参加した。LCIFから日本でのプログラム管理を委託されている青少年育成支援フォ

ーラム（JIYD）の協力の下、模擬授業が行われ、プログラムの内容を初めて実感する機会となった。

その後、05年5月に秩父第一中学校の教員4人が都内で行われた公募型のワークショップ（WS）に参加し、プログラムの導入は一気に実現に向けて加速する。05年8月に全教員40人を集めた校内型WSを実施すると、夏休みが明けた翌9月には全学年による学校導入が始まった。後期からという変則的な導入ではあったが、総合的な学習の時間の中に10時間というまとまった授業数を確保出来た他、全学年ともプログラムの指導書通りに単元1から授業をスタートすることが出来た。

次年度以降も校長を始め学校側の体制に大きな変化はなく、ほぼ同じペースで授業は進んだ。08年4月から新しい校長が着任したが、ライオンズクエスト導入から4年が経過した現在も、新校長の体制下で変わりなく継続されている。

第一中の動きに興味を示した秩父第二中学校でも、05年11月にミニWSを

●2004年11月：秩父第一中学校で、PTA主催のライオンズクエスト体験会を実施
●2005年8月：秩父第一中学校で校内型WS開催
●2005年9月：秩父第一中学校、全学年でライオンズクエスト・プログラムを導入
●2005年11月：秩父第二中学校でミニWS開催
●2006年8月：秩父第二中学校で校内型WS開催
●2006年9月：秩父第二中学校、全学年でライオンズクエスト・プログラムを導入
●2009年8月：市のPTA連合会主催の公募型WSを開催

◆埼玉県・秩父中央ライオンズクラブ

主催。やはり翌年の後期から、クラブとしては2校目となるプログラム導入を成功させている。

秩父中央ライオンズクラブが導入に成功した、いちばんの要因はPTA人脈だ。直近でも09年の夏休みに公募型WSが開催されているが、主催を秩父市PTA連合会が務め、秩父市教育委員会の後援を取り付けた。このWS開催に当たっては市内23校の小中学校の校長会に出向き、WSへの参加を要請。最終的に25人の修了者を送り出すこととなった。過去、秩父地区で行われたWSは4回。この他、関東近郊で行われた公募型WSへの派遣を含めると、秩父中央ライオンズクラブは、総計で120人を超えるWS修了者を輩出したことになる。

チャンスを逃さず クラブの底力で急場を凌ぐ

秩父中央ライオンズクラブ同様、2校目の導入を実現したのが、高知とさみずきライオンズクラブ（石原文子会長／15人）。

最初の導入校は、私立の高知中央高等学校。2005年に高知とさみずきライオンズクラブが行ったライオンズクエスト・プログラムの体験会に、同校の理事長夫人が参加していたことが発端だ。その模様は早速、理事長に伝えられ、理事長はすぐさま校長にプログラムの調査を打診。折しも学校改革に取り組んでいるところだった校長も素早い対応を見せた。年が明けて06年1月、埼玉県で開催されたWSに2人の教員と共に参加した校長は、新学期からの導入を即決。同年3月に校内型WSを開催し、翌月からプログラム開始というスピード導入となった。

実は当初、クラブは結成5周年を迎えるタイミングで導入校を作ろうと考えていた。ところが同校長が予定より早く名乗りを挙げたため、WS開催のための資金が足りないという苦しい状況に陥った。

「ですが、せっかくの申し入れを逃す手はありません。話が急でクラブの理事会でも追加予算は承認されませんでしたが、最終的には自腹を切るまでしてやる気があるなら皆でやろうという当時の会長の判断でこの難局を乗り切りました」

とは、同クラブでライオンズクエストの普及のために奔走する北泰子。無事に開催されたWSであったが、2日目にはWSをサポートするメンバーとは別にフリーマーケット班が出動。資金調達活動を並行して実施した。このように独自の資金獲得活動で学校導入を支えているのが、同クラブの大きな特長である。

年間計画の下、体系的にプログラムを実施していた高知中央高校だが、08年3月に校長が代わったことで、ライオンズクエストのために時間を割くことに関しては、以前ほど積極的ではなくなった。ただ、在籍している教員は全員WSを受けており、プログラムそのものを評価しているので、それぞれが担当教科の授業の中でそのエッセンスを活用しているようだ。その証拠に同校からは、2010年度にWS修了者を対象とした研修会であるフォローアップWSを開いてほしいとの要請が

◆高知とさみずきライオンズクラブ

- 2004年5月：埼玉で開かれたWSにクラブメンバー1名が参加
- 2006年3月：高知中央高校で校内型WS開催
- 2006年4月：高知中央高校、全学年でライオンズクエスト・プログラムを導入
- 2007年7月：高知中学高等学校で校内型WS（1回目）開催
- 2007年12月：高知中学高等学校で校内型WS（2回目）開催
- 2008年4月：高知中学高等学校、中等部と高等部でライオンズクエスト・プログラムを導入
- 2009年7月：市内5クラブ合同で、公募型WSを実施

単一クラブでも 実現出来る ライオンズクエスト 学校導入

出されている。

高知とさみずきライオンズクラブがかかわった二つめの導入校は高知中学高等学校。やはり私立で、ライオンズクエストにおいても中高一貫教育を実践。現在、導入から2年目を迎えている。父兄にライオンズのメンバーがいた他、教頭とメンバーが親しい間柄にあったことが導入のきっかけだ。

私立の学校が続いた理由は、最初の導入校である高知中央高等学校が、私学人権研修会で、ライオンズクエストの公開授業を実施し、県内の私立小・中・高等学校にこのプログラムを紹介したことによる。この時、授業を見学した高知中学高等学校の参加代表者がライオンズクエストの良さを確信し、これが引き金となって学校導入が実現した。他校からの引き合いもあるようで、多くの教育関係者が集うこうした場は、プログラムのPRに効果がありそうだ。

学校の要望をサポートするのもライオンズの役目

一つのクラブで3校を受け持っているクラブもある。兵庫県・加西ライオンズクラブ（高見光会長／31人）は最初の導入校である北条中学校の他、2009年8月にWSを受けた、市内二つの小学校でプログラム導入を実現。2学期からライフスキルの授業が始まった。

加西ライオンズクラブのライオン小川初男は、自身がPTA副会長を務めていた学校の校長から、「生きる力」という言葉を初めて聞き、いろいろと調べていく中でライオンズクエストの存在を知った。その後、クラブ理事会で承認してもらった5千円の予算でJIYDからライオンズクエストのパンフレットを購入し、市内にある四つの中学校や学校関係者に配布した。

このパンフレットを見て関心を持ったのが、加西市立北条中学校の校長だった。「職員研修として当校で体験会を開催してほしい」と依頼があり、クラブもこれを了承。校内型WSを開いた後、北条中から07年度の2学期後半から3学期にかけて「試しに1度授業を行いたい」という話があり、各学年で3時間のライオンズクエストによる授業が行われた。プログラム導入の経緯をよく知る同校教頭は当時の様子をこう振り返る。

「今までにない新しいプログラムという評価でした。意思決定を強化することによって、進路決定や問題行動の防止にも役立つ面があるので、導入してはどうかという意見が多く出ました」

生徒にも評判が良く、08年の新学期から各学年で8時間、総合的な学習の時間を使って取り入れることになった。3年生は自らの進路決定に役立つ目標設定の力を伸ばす単元、また北条中には三つの小学校から生徒が集まることから1年生には「仲間づくり」につながる単元が選ばれた。翌年も同様に8時間取り入れて、この年でようやく北条中学校が目指すべきカリキュラム像が見えてきたと教頭は話す。

「ライオンズクエストの良いところをうまく活用し、本校の課題にフィットした独自の心の教育を模索しています。ライフスキルはもちろん、道徳的な要素や生徒会活動、教科の授業をも充実させる包括的なものを考えています」

折しも09年から市の研究指定校に選ばれ、現在2年間の実践研究を始めている北条中。この取り組みに際し同校は、ライオンズクエストによるライフスキル教育をより充実したものにするため、研究を一緒に進めてくれる指導者を探してほしいと、加西ライオンズクラブに相談していた。

そこで同クラブは、かつてライオンズクエストの日本語テキスト作りに携わった兵庫教育大学の西岡伸紀教授を紹介し、同時に研究の資金援助を約束した。この研究結果からライオンズク

エストの効果が検証されれば、更にプログラムが広がり、子どもたちに届けられることが期待される。

学校の課題に合わせて カスタマイズ出来るプログラム

ライオンズクエストは教育現場から、時間配分や具体的な授業の進め方などが丁寧に書かれた使いやすいプログラムだとの評価を得ている。単元1から順に取り入れていけば、無理なく効果を得ることが出来るので、何かと時間に追われることの多い教員にも受けが良い。が、北条中学校のように、学校の課題解決に必要な単元だけを選ぶという使われ方も珍しくない。

「プログラムを導入した後は、教育のプロである先生が使い勝手のいいように運用していくのがベスト」と加西ライオンズクラブの小川は理解し、学校側の要請にも柔軟に対応している。もっとも、必要としている生徒に合わせて使ってもらえるのがいちばんなのだが。

高知とさみずきライオンズクラブによる

◆兵庫県・加西ライオンズクラブ

- 2005年11月：クラブ理事会で、ライオンズクエストの取り組みについて協議
- 2006年8月：北条中学校で教職員向けのライオンズクエスト体験会を開催
- 2007年8月：北条中学校で校内型WS開催
- 2007年11月：北条中学校ライオンズクエスト公開授業
- 2008年4月：北条中学校、全学年でライオンズクエスト・プログラムを導入
- 2008年10月：北条中学校ライオンズクエスト公開授業／フォローアップWS開催
- 2009年6月：宇仁小学校で研修会開催
- 2009年8月：北条小学校、宇仁小学校の教職員28人を中心にWS開催
- 2009年9月：北条小学校と宇仁小学校でライオンズクエスト・プログラムを導入

2校目のライオンズクエスト導入先である高知中学高等学校も北条中と同じようなプログラムの使い方を選んだ。

「他のプログラムも行っているので、ライオンズクエストだけに時間を割いてプログラム通りに実施するのは難しい。だから教科の授業で余った時間を利用するなど、使えるものを必要に応じてピックアップしています」

と、同校でライオンズクエストの窓口となっている秋山教一（のりかず）先生。同校では、朝8時35分から45分を総合教育の時間に、45分から55分を朝のホームルームの時間に充てているが、この時間を利用して毎日20分、必要な部分だけ使うことが出来る。それでもこのプログラムは、十分効果を発揮するというのが同校の考えだ。

一方、富山昭和ライオンズクラブ（三條孝順会長／38人）によってモデル校となった富山市立大泉中学校は、プログラムをそのまま素直に導入した事例と言っていいだろう。07年4月から全学年でプログラムを導入した同校では、運用開始前にJIYDと共に07年度の

導入カリキュラムと3カ年計画を詰め、1年生35時間、2年生20時間、3年生は20時間の授業時間を確保した。

その後も順調に事業は進行し、09年3月には富山昭和ライオンズクラブの記念事業として富山市内でライオンズクエスト・フォーラムが開催され、その一環として同校2学級による公開授業が行われた。3カ年計画のライオンズクエスト事業はいよいよ一巡目を終えようとしているが、同校には地域での導入モデル校としての役割が期待されている。

プログラム導入の1年前から精力的に同校への働きかけを見せた当時のクラブ会長ライオン石動(いするぎ)勇は、この先の支援について次のように話している。

「ライオンズクエストは、計画が一巡しておしまいといったたぐいの事業ではありません。更に複数年度の支援が必要でしょう。現在、クラブでは次年度以降の副会長にも事業継続の協力をお願いしているところです」

今年度、同クラブでは青少年育成委員会の他に「ライオンズクエスト委員会」を立ち上げた。この特別委員会の創設によって、支援が複数年度にわたっても、以降の副会長に協力を要請すれば、事業が継続出来る仕組みとなっている。

単一クラブでも実現出来るライオンズクエスト学校導入

金と任期の切れ目が縁の切れ目では済まされない

教育事業は長期的視野が必要だが、単年度でクラブ会長や担当委員が替わってしまうのがライオンズ。事業の継続や資金面について各クラブでどのような工夫をしているのだろう。

秩父中央ライオンズクラブは富山昭和ライオンズクラブ同様、05年にライオンズクエスト委員会を発足させ、同時に繰り越し可能な特別会計も新設。年度をまたいでの支出や、複数年度の予算立てが出来るため、大きな出費も可能となった。とはいえ、前述した通り第一中はマンモス校ゆえ、新任教師のWS参加費用の捻出が毎年の課題。新年度の異動によって毎回10人以上のフォローを行わなくてはならない。

これまではLCIF交付金を最大限活用することでWSを開催することが出来た。しかし今後、地区内でライオンズクエストを導入する学校がどんどん増えていけば、LCIFの資金は、まだ手つかずのエリアで使うことが優先され、特定の地域だけが突出して利用することは出来なくなるだろう。だから秩父中央ライオンズクラブのように、継続して年間予算を組める環境を作っておくことが望ましい。

高知とさみずきライオンズクラブも単年度予算の仕組みをどうクリアするかを考え、やはりクラブの青少年委員会の中にライオンズクエストの特別委員会を設けている。

「1年限りではなく5年、10年というスパンで、クラブとしてどのような支援を行っていくかを計画しなければいけません。そのためには長期で取り組める組織と、長期の事業プランが絶対に必要。予算の見通しさえつけば、私たちのように10人程度で活動する小さなクラブでも、学校導入に結び付けることは、そう難しい話ではありません」と、ライオン北。

実際、5年間で学校導入を決めるという長期的なプランの下、導入事業を進めてきた同クラブであったが、予想していたより早く導入がかない、フリーマーケットによる資金調達を行ったことは前述した。この資金調達活動はその時の急場しのぎにとどまらず、その後も継続。現在はチャリテー・バザーという形で、収益金をライオンズクエスト事業資金に充てている。高知とさみずきライオンズクラブでは、こうした資金を利用して、LCIF交付金に頼らず独自で何回か公募型のWSを開催している。

学校導入を支援する 単一クラブに限界はあるのか

単一クラブが支援可能な学校の数については、それぞれクラブで違う考え方があるようだ。

「1クラブ1校支援」体制が最も適切だと考えているのは富山昭和ライオンズクラブ。

「時間的、組織的、そして費用的にも単一クラブの支援には限界があるもの。反面、導入後の支援を効果的に実行し、その密度を濃くするためには、一校支援体制が最適だと思います」(ライオン石動)

複数校への導入支援を予定していないため、普及活動のための主な支出は、WS参加費やセミナー開催費など毎年ほぼ予測が可能で、見通しが立てやすい。特に新任教師のWS参加費用の支援については、年間の委員会事業費用として予算に計上し、クラブ理事会の承認を得ている。

一方、二つの学校支援を受け持ち、なおかつ公募型WSを他のクラブと協力しながら開催する。これが現在の高知とさみずきライオンズクラブがとっているスタンスだ。2校の支援が適切としながらも、高知県内はもとより中国四国地方にライオンズクエストを広げるべく啓発活動を続けている。

「10人程度のクラブにとっては2校のフォローでせいいっぱい。でも、新たに手を挙げる学校の相談には乗れますし、その学校の面倒を見てくれそうなクラブに協力をお願いする動きはしていくつもりです」(ライオン北)

クラブとして導入校を増やしていきたいのはやまやまだが、導入校の数が多くなりすぎるのもそれはそれで問題だ。支援する学校が増えれば増えるほど、単一クラブでは費用面のサポートが難しくなっていく。

「LCIFの資金を利用して導入校を作るまでは、人脈と良いタイミングがあればそれほど無理なく実現可能だと思いますが、大変なのはむしろ導入後のフォロー。少なくとも3年から5年の間、手厚いフォローを続けなくてはなりません。プログラムを紹介した以

◆富山昭和ライオンズクラブ

- 2006年8月：大泉中学校で教職員向けの研修会（1回目）を実施
- 2006年9月：富山市内で行われた公募型WSに、大泉中学校の教職員5人が参加
- 2007年2月：大泉中学校で教職員向けの研修会（2回目）を実施
- 2008年3月：大泉中学校で校内型WS開催
- 2008年4月：大泉中学校、全学年でライオンズクエスト・プログラムを導入
- 2008年12月：大泉中学校でフォローアップ研修会開催
- 2009年3月：結成25周年事業としてライオンズクエスト・フォーラムを開催、大泉中学校の協力を得て公開授業も併せて実施した

上、途中で投げ出す訳にもいきませんから」

とは、秩父中央ライオンズクラブのライオン大嶋。他のクラブが開催した公募型WSに運良く教員を送り込むことが出来れば参加費だけで済むが、場合によってはクラブ主催でWSを開催しなくてはならないこともあり得る。そうなるとWSへの講師の派遣料や2日間の会場費などがその都度発生し、予算を圧迫する。やはりLCIF四大交付金に頼らないと、単一クラブがプログラム導入校を支援し続けることは難しいのだろうか。

ライオンズクエスト 普及活動のあるべき姿

WSの参加費はクラブで負担、講師の派遣料は地区に交付されたLCIF資金で賄ってきた加西ライオンズクラブ。交付金に頼らない学校へのフォローを続けるには、二つの方法しかないとライオン小川は断言する。

一つは「導入からある時期まではライオンズ主導でサポートをするが、その後は学校側で運営する」。確実に手離れする事業であれば、単一クラブでも導入事業は拡大可能と話すが、なかなかそうもいかない。

単一クラブでも実現出来るライオンズクエスト学校導入

もう一つは「市内及び周辺市町にあるクラブがそれぞれライオンズクエストの導入校を持って、新任教員のための公募型WSを開催するようになること」。幾つかのクラブが共同でWSを開催して、新しく導入校に赴任してきた先生たちがWSを受講しやすい態勢づくりで協力し合えば、一つのクラブが単独でWSを開催するのに比べ大幅に負担は軽減される。

これを実現させるには、地区内でライオンズクエストにかかわるネットワークを構築することが必要だが、その価値は十分にありそうだ。

例えば前述したように、秩父中央ライオンズクラブによって、数回のWSが開催されたおかげで、秩父地域のWS修了者は120人を超えている。しかもこの地域は異動によって教員が地区外へ分散することがあまりないため、このままフォローを続けていけば教員がどこの学校へ異動してもライオンズクエストの授業が行え、その成果を地域の子どもたちに還元出来る。

そう考えると、地域ぐるみでの取り組みは、かなり重要なファクターとなりそうだ。

となれば、クラブの枠にこだわる必要もないのかもしれない。高知とさみずきライオンズクラブはつい最近、初めて県内5クラブ共同で公募型WSを開催した。一つのクラブで30人近い教員らの段取りをするのは大変な手間。そういう負担面が軽減されることを考慮すると、クラブ同士が協力する形は費用面以外にもメリットがある。

「やり方次第で、交付金に頼らずとも十分にやっていけるはず。うちのような小さなクラブが出来るのですから、きっとどこのクラブでも出来ます」

とライオン北。最近は、新しいアプローチ先も開拓中だ。県で行っている教員の初任者研修の教材としてライオンズクエストを使ってもらえないかと打診した。赴任する前の教員にこのプログラムに接してもらえると、地域の学校にプログラムの影響が間違いなく行き渡る。うまくいけば赴任先の学校でのライオンズクエスト導入にもつながるだろう。こうした普及活動と学校導入を平行して行えれば、ライフスキルを必要としている子どもにとってとてもいい環境になっていくはず。

大人はすぐに（経営者が多いライオンズは特に）結果を求めたがるが、教育は長い目で見守らないとなかなか成果は現れないもの。今一度、子どもたちに何が必要かを見つめ直し、このすばらしいプログラムの普及に力を注いで頂きたい。

日本上陸から10年。ライオンズクエスト・プログラムの課題と展望

鼎談

ライオン 岡田恭孝
三重県・津西ライオンズクラブ／334・B地区ライオンズクエスト特別委員（推進委員長）

ライオン 清水直喜
福井県・敦賀みなとライオンズクラブ／今年度クラブ幹事

ライオン 安部尚雄
大分県・豊後高田ライオンズクラブ／今年度クラブ幹事

LCIFから日本でのライオンズクエスト・プログラムの普及や版権管理を委託されている青少年育成支援フォーラム（JIYD）は、一定の条件を満たしたライオンズ・メンバーなどが、体験会やセミナーでプログラムを説明するための説明員制度を設けている。現在、日本全国で16人の説明員が、それぞれの地域で普及活動に携わっており、これら説明員はライオンズクエストの最前線にいる。

日本でのパイロット事業スタートから10年。現在、北海道から九州・沖縄まで、多くの地区でLCIF四大交付金事業が展開されている。その一方、各地区独自の方式でLCIFプログラムが実施され、他の地区がどのような形で取り組んでいるかまでは分からないのが実情だ。そこで、各地で活動するプログラム説明員の方3人に集まって頂き、ライオンズクエストの課題と今後の展望について話し合って頂いた。

PTA活動の限界 ライオンズのアクティビティへの疑問 これはその答えになるかも……

――まず自己紹介も兼ねて、ライオンズクエスト・プログラムとの出会いをお話しください。

岡田　私はPTA会長を6年間務め、いろんな矛盾を感じてきました。そんな中、2004年の『ライオン』誌でこのプログラムを知りました。翌年、仙台で開催された東洋・東南アジア・フォーラムでライオンズクエストのミニ・フォーラムが行われ、これに参加した同じクラブの会員からすばらしいプログラムだと感想を聞き、更に関心が高まりました。

安部　私も岡田さんと似ています。PTAに15年間かかわる中で、活動の限界を感じていました。そんな時、やはり2004年の『ライオン』誌でプログラムのことを知りました。その1年後、市のPTA連合会の会長を務めることになり、これを機にもっと詳し

い情報を聞こうと、プログラムを管理している青少年育成支援フォーラム（JIYD）に連絡をしました。

清水　私は4年前、地区でライオンズクエストに取り組むかどうかが検討された年度に、地区委員としてかかわったのが最初です。ただ、その時点では果たしてライオンズクラブで取り組むことが可能なのか、私個人はどちらかと言うと否定的な考えでした。

――そんな清水さんが、プログラム説明員になって普及活動に携わることになったのはどうしてですか。

清水　話がさかのぼりますが、クラブの青少年委員会で企画を練っている時、「我々の活動はスポーツ大会とか、問題のない子どもを対象にしたものが多いが、問題行動のある子どもに対する活動ってないよね」という意見が出ました。結局、それに応えることは出来ませんでしたが、この一言がずっと引っ掛かっていました。その後、2年前に当クラブから地区ガバナーが出て、私も副幹事としてライオンズクエストを担当し、時期尚早とか、ライオンズが取り組む問題ではないなどの意見が多い中、既に前年から動いていた富山昭和ライオンズクラブの活動を知ったんです。3年計画を立てて推進されていて、すごいなあと思うのと同時に、こうやれば出来るんだ、ということが分かりました。また、私の消極的否定とは違う考えを持って動いている方たちがいることを知り、キャビネットとしてバックアップしなくてはとの思いで、推進側に回ったという感じですね。

今年は年100回のワークショップが開催され、プログラムの普及が急速に進んでいる

ただ、説明員になったのは、次年度キャビネットへの引き継ぎの時、あんたが説明員になってくれれば楽なのにと言われたのがきっかけです（笑）。

――岡田さんと安部さんは、どんなことから説明員に？

岡田　私は仙台フォーラムの話を聞いた後、翌年度に就任を打診されていたクラブ幹事を引き受けるに当たり、ライオンズクエストをメーン・アクティビティで取り上げてくれることを条件にし、認めてもらえました。その後、津市内4クラブの合同委員会で合同事業にすることが承認され、更にそれがゾーン合同、リジョン合同へと発展しました。その中で、言い出しっぺの私がコーディネーター役を務め、2人の説明員を作ることになりました。しかし数日前に、一人の都合が悪くなり、代役で私が受講したというわけです。

安部　私は当初、ライオンズとは関係なく、養護の先生たちが中心となって熊本で開催されたワークショップに参加させてもらったり、市のPTA連合会で体験会を開催するなど、JIYDとのつながりの中で、ライオンズクエストの知識を深めていきました。ある体験会の時、JIYDの方がプログラムの説明をしているのを見て、自分もこういうふうに説明出来たら、ライ

オンズの中にも、また学校側にも、プログラムの良さを正しく伝えることが出来るのにと思ったんです。その話をＪＩＹＤにしたら、説明員というのがあると教えてくれ、資格を取ることにしたんです。実は、清水さんとはその時、一緒に受講した同期なんです（笑）。

──説明員としての活動の中で感じたことを聞かせて頂けますか。

安部　私の場合はまだ説明員としての経験は少ないんですが、例会で30分で話してという注文があって、それだけの時間だと中途半端になってしまうので、苦慮しています。

清水　ご要望なので、かいつまんだ説明だけさせて頂きますが、30分では核心に届かないため、改めて先生方をお誘いし、一緒に体験会を受けてみませんかとお願いしています。

岡田　私もそうですね。1時間30分はくださいとお願いしています。これは同じ地区の説明員である磯田（保）さんとの申し合わせでもあります。

安部　それと、他の説明員の方の体験会にも行って勉強したいんですが、機会がないですよね。いつもこれでいいのか自問しています。同期の清水さんとはよく情報交換をしているんですが、もっと多くの方とやりとり出来ればと思います。

岡田　確かにおっしゃる通りです。今後はお互いに情報交換をしてスキルアップを図ったり、ＪＩＹＤ側にもそういった面の働きかけをしましょう。

継続性と資金面　この二つの課題を解決するには　地域全体での取り組みが鍵になる

──皆さんは説明員として、いろいろなクラブや学校とつながりがあると思いますが、そうした経験を通して、このプログラムの課題や展望について、忌憚のないご意見をお願いします。

岡田　私が最初にライオンズクエストを知った２００４年の『ライオン』誌では、日本で初めてプログラムを導入した中学校の話が出ていて、その中で当時の校長先生が、「このプログラムは決して特効薬ではなく、長く続けることで初めて効果を現すもの」とおっしゃっていました。つまり継続性が大事だということです。ライオンズは単年度役員制なので、ここをどうクリアするかがいちばんの課題です。

清水　「学校に迷惑がかかりますから、途中で投げ出すことは出来ませんよ」ということと、「お金がかかりますよ」ということは、取り組みを始める前によく理解して頂きたいです。

安部　337‐Ｂ地区の場合はＬＣＩＦ四大交付金事業としてスタートしたばかりなので、今はすそ野を広げる段階ですが、ある程度進展していくと、継続性と資金面、この二つが課題になってくるということですね。

清水　334‐Ｄ地区も昨年までは、地区主導で公募型ワークショップを組みながら、導入校を作りたいというクラ

ブがあれば支援し浸透を図る普及初期の段階だったと思います。が、今年は学校との調整を終えたクラブから校内型ワークショップの要望が増え、普及拡大の段階に入ったような状況です。

安部　清水さんの活動が実を結んできているわけですよね。うらやましい。

清水　そう考えればうれしいんですが、これまでLCIF四大交付金でワークショップが開催され、クラブは参加費負担程度を念頭に取り組んでいました。が、要望が増えたことで枠組みが変化し、導入校を作りたいクラブが校内型ワークショップの開催費用を負担しなくてはならない状況になってきました。といって、それを理由に「やっぱりやめた」と相手の学校に言えるはずもなく……。説明員としてお付き合いしてきたクラブの皆さんには「おまえにだまされた」と言われますが(笑)、それでも自クラブで資金を調達して、ワークショップを開催してくださっています。ありがたいことです。

岡田　昨年1月号の『ライオン』誌でも取り上げて頂きましたが、私どもはリジョン内全クラブ合同で、ライオンズクエスト推進委員会を組織しています。これは清水さんがおっしゃったように、ライオンズの都合でやめてしまえば学校に迷惑がかかるし、またライオンズの名前にも傷がつくことになる。それを回避するため、リジョン横断的な専門機関を作り、長期的視野で取り組めるようにしました。今はこの方式が、地区全体に広がっています。

安部　資金面はどのようになっているんですか。

岡田　334-B地区には四つのリジョンがあるんですが、私どもは全会員一人当たり2千円、他の三つは一人千円をライオンズクエストのために拠出しています。また当初、私たちのリジョンでは、各クラブ20万円の予算をライオンズクエストのためにつけてくれというお願いもしたんですが、会員が減り経済も良くない時期ですから大変でした。めちゃくちゃやないか、と。でも、肝心なのはライオンズクエスト活動を推進して、1日でも早く子どもたちにプログラムを届けることです。

安部　私の場合はただの説明員なので、ゾーンやリジョン、地区に対して、そこまで踏み込んだ進言は出来ませんが、当面は四大交付金を使って普及活動をしていくにしても、ゆくゆくは334-B地区方式か、あるいは337-B地区独自の方式を作って、継続的に取り組む態勢を築かないといけませんね。

清水　私も説明員の立場としては、普及の枠組みや方策についてはかかわりにくい部分もあり、自分が体験会を通じてプログラムを紹介する中で、ワークショップ開催や学校導入が決まることでよしとしています。そんな中、福井市内のクラブが合同で取り組むことが決まったんですね。これは学校との交渉窓口を調整するという目的もあったようですが、こうしてそれぞれが工夫をされているのを見ると、地域性もありますし、自然増殖に任せるのも一つの手かなと思ったりします。

岡田　地域という視点は大事ですね。私は最終的にライオンズも含めた地域全体で取り組むべきものと考えています。そのため近々、三重県青少年ライフスキル支援ネットワークというNPOを立ち上げます。また、資金面でも、拠出金を集めるという方法をいつまでも続けるのは難しいですね。そこで新たな取り組みとして、地域からの支援という形で、今、清涼飲料メーカーのダイドードリンコの協力を得て、自動販売機の売り上げの一部を「ライフスキル教育普及基金」として寄付して頂く事業をテスト的に実施しています。

安部　それが軌道に乗ったら、画期的ですね。ライオンズのPRにもつながりますし、安定的にライフスキルを子どもたち伝えることが出来ます。今後の進展など、また情報をください。

プログラムを普及させる第一段階として、ライオンズや教育関係者を対象に体験会やセミナーが開催され、説明員やJIYDスタッフが講師を務める

第48回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム

2009年11月19～22日　タイ・パタヤ

REFLECTION―

OSEALの来し方行く末を熟考する

20日の開会式の会場はPEACH。❶スピーチするヴィルフス国際会長、❷歓迎の言葉を述べるソムサクディ・ロヴィス フォーラム委員長、❸イティポール・クンプロム パタヤ市長

2009年11月19〜22日、タイ屈指のリゾート地パタヤで、第48回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムが開催された。登録者総数は6085人（日本人2238人）。フォーラム・テーマに掲げられた「REFLECTION」には、OSEAL地域の半世紀近い歩みと現状を見つめ直し、力を尽くして「熟考」しようという意図がこめられている。

OSEALフォーラム開催期間中は穏やかな好天に恵まれた。南国のリゾート地らしい真っ青な空の下、心地よい風が吹く。会場となるロイヤルクリフビーチ・リゾートは明るい色のタイ湾を眼前に臨み、宿泊施設の他、最大5千人を収容する多目的ホールやボールルーム、会議室などを備えた複合施設である。

フォーラム2日目の20日、パタヤ・エキシビション&コンベンション・ホール（PEACH）で開会式が開催された。会場は適度な広さで、室内4カ所に取り付けられた大型スクリーンにより、どこに座っても舞台上の様子がよく分かる。定刻通りの13時半、登壇する役員たちの入場が始まった。客席側では自国のリーダーが登場すると大きな声援が上がった。会場では法被姿

（上段右から）国際会長と地区ガバナー・チームの会議、国際第1副会長と第1副地区ガバナーの会議、国際第2副会長と第2副地区ガバナーの会議

（中段右から）ライオンズクエスト・セッション、日本GMT会議、日本語セミナー

開会式前のフード・フェスティバルでは緑したたる庭園でタイの味覚を味わいつつ楽しいひと時を過ごした

で国際理事候補者支援をアピールする330・A地区の応援団が特に目を引いた。式典プログラムには複合地区議長のあいさつを映像で紹介したり、式次第の間に10分程度の民族舞踊を挟んで雰囲気をリフレッシュするなど、単調にならず参加者を引きつけるように工夫が凝らされていた。全体に間延びのないコンパクトな式という印象だ。が、残念ながら、約2時間後の閉会の頃には客席はガラガラになってしまった。参加意識の改善が必要だろう。

この後、17時からホテルのプールサイドで開かれたジャパン・レセプションは、ロケーションも手伝ってとても居心地の良い会であった。開始時刻は太陽がやや西の空に傾き掛けた頃。参加者は思い思いにドリンクや料理を楽しんだり、談笑したり。会場のスペースは広く、皆ゆったりと過ごしている。そんな中、八複合地区が推薦する2010～12年国際理事候補として山浦晟暉（東京新宿ライオンズクラブ）が紹介された。山浦は、国際協会の発展のために尽くし、LCIFに対する理解を内外に広げていきたいと抱負を語り、会場からは大きな拍手が送られた。ヴィルフス国際会長を始め国際協会執行役員も激励に訪れ、山浦候補と日本ライオンズへの期待を述べた。

ジャパン・レセプションでスピーチするスクラッグス国際第2副会長

22日閉会式。抱負を述べる二人の国際理事候補者、日本のﾗｲｵﾝ山浦晟暉（下段中央右）と台湾のﾗｲｵﾝタールン・チャン（同左）。ロヴィス委員長から次回高雄フォーラムのマグネット・リン委員長へバトンタッチ

組織委員会が今フォーラムのハイライトの一つに据えていたのが、各種セミナーや会議など、話し合い、情報交換の場を多く設けること。恒例の各種会議はもとより、5カ国語（中国語、韓国語、英語、タイ語、日本語）でそれぞれの国や地域に適したテーマのセミナーも開かれた。日本語セミナーのテーマはLCIFで、視力ファースト技術顧問であり、長年にわたり東南アジア地域で視力保護の活動を続けてきた紺山和一博士が、ラオスでの視力ファースト事業について講演した。

今回、協議会議長と地区ガバナーの会議で、OSEALフォーラムの情報を収めるライブラリーを設けることが提案され、特別委員会を発足させ検討が行われた。過去のあらゆるデータを収集、記録すると共に、次世代のライオンズに受け継いでいくのが目的で、今後作業が進められていくことになった。その大きな遺産の上には、より進化した生産的なフォーラムを築いていくべきだろう。パタヤ・フォーラムを出発点に、OSEAL地域が前進していくための「熟考」が始まったのかもしれない。

次回、第49回OSEALフォーラムは2010年11月18～21日、台湾・高雄で開催される予定。

■国際理事
不老安正
（福岡県・太宰府）

ニューオーリンズで感じたこと

　国際理事会出席のため、成田空港からダラス経由にて、アメリカ・ルイジアナ州ニューオーリンズへ降り立ちました。9月29日から10月4日まで行われた国際理事会は、街の中心部にあるホテル、ザ・リッツ・カールトンで開催されました。ご存じの通り、ニューオーリンズは2005年にハリケーン・カトリーナにより大きな被害を受けました。ホテル周辺ではその痕跡はほとんど見受けられませんでしたが、10月2日の休息日を利用して被災地域へ行き、いろいろ見て回りますと、やはり所どころに災害の爪跡があり、被害の大きさ、復興への市民の努力を実感しました。しかしながらニューオーリンズは実にすばらしい所です。ゆったりと流れるミシシッピ川と古き良きアメリカがここにはあります。

　さて、国際理事会は毎日朝9時から夕方5時まで理事会、委員会にて審議・検討が行われる、かなりハードなものでした。出発前に各委員会の審議事項並びに本部運営報告書が送られてきて、予め目を通しておくよう指示がありました。理事会では私は大会委員会に所属しており、ロブレスキー委員長を始めとする委員が、2010年のオーストラリア・シドニーでの国際大会成功に向けて活発な意見交換を行いました。その中でロブレスキー委員長から、私にとっては耳の痛いお話がありました。氏は85年度国際会長を務め、87年からは大会委員長の重責を務められ、毎年の国際大会を見てこられました。そうした中で、日本のメンバーは開会式には大勢参加するものの途中退場が目立ち、閉会式にあまり出席しないこと、また投票を行わない代議員が多いとの厳しい指摘を受け、よく指導するように指示されました。この件に関してはしっかりと対応していきたいと思っております。委員会にはヴィルフス国際会長とブランデルLCIF理事長、第1、第2副会長も視察にいらして、意見交換が出来ました。

　理事会では国際会長から会員増強について、昨年度は268人減であった期首から8月末までの増減が、今期は2750人増加したとの報告がありました。これは「クイックスタート銀杏賞」の大きな成果だと言えるでしょう。OSEAL地域では6月の退会者が非常に多く、グローバル会員増強チーム（GMT）の今後の取り組みにおける大きな課題であります。また、20人未満のクラブの建て直しが必要であり、より「強いクラブづくり」が求められております。

　PR委員会の審議事項であった公式プロトコールにおけるLCIFコーディネーターの配置については、議題にされませんでした。これに関する質問には担当委員長から「一部の会則地域のみの問題を取り上げるわけにはいかない」と説明がありました。

　この度の国際理事会でいろいろな体験をし、ライオンズの今後の動向について私なりに理解を深めることが出来ました。特にヴィルフス国際会長とは日本公式訪問のお礼のためお部屋へ伺い親しくお話しする機会が持てたこと、ピーター・リンチ国際本部長と意見交換が出来たことは、まことに有意義で実り多いものでした。これらを生かし、これからも情熱を持って積極的に取り組んで参ります。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

国際青少年音楽コンクール OSEAL審査出場者決まる

エバハルト・ヴィルフス国際会長が推進するライオンズ国際青少年音楽コンクールの国内選考会が、11月30日に東京・渋谷のアコスタディオで行われた。審査員はバイオリニストの漆原啓子氏、歌舞伎長唄囃子方の田中傳左衛門氏、クラシック・ギタリストの村治香織氏（東京ワンハンドレッドライオンズクラブ）。選考の結果、332複合地区推薦の高橋すみれさん（東京音楽大学4年／青森県八戸市出身）、336複合地区推薦の地行美穂さん（東京音楽大学大学院2年／香川県高松市出身）の2人が、東洋・東南アジア（OSEAL）地域の推薦者一人を決める選考会へ出場することになった。OSEAL選考会は4月に香港で開催予定。最終審査は6月のオーストラリア・シドニー国際大会において、七つの会則地域から推薦を受けた出場者によるコンサート形式で行われる。

（写真：くじで演奏順を決める出場者）

タイ・パタヤで上位ライオンズ・リーダーシップ研究会

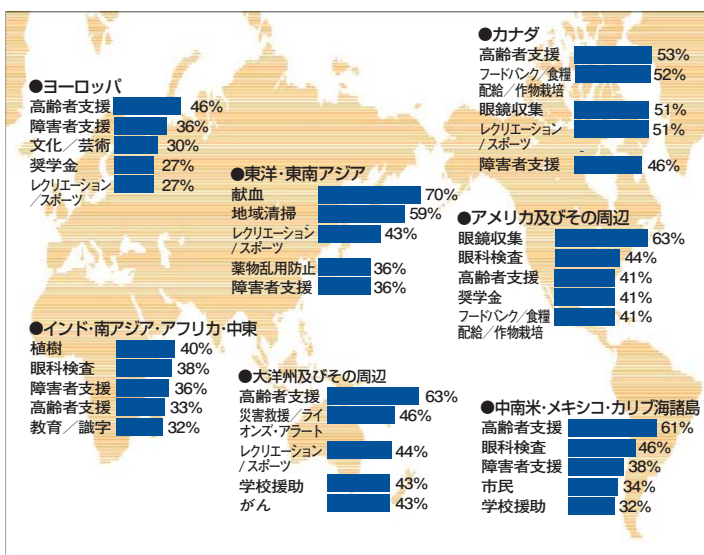
11月15日〜19日、タイ・パタヤのロイヤルクリフビーチ・リゾートでOSEAL地域の上位ライオンズ・リーダーシップ研究会が開催された。この研究会は指導者としてのスキルを高め、ゾーン、リジョン、地区の各レベルで指導的責任を担う準備を整えることに主眼を置いたもの。会則地域ごとに国際協会リーダーシップ部が運営し、OSEALではパタヤ・フォーラム会期前に開かれた。参加者は8カ国108人、講師13人で、日本語、英語、中国語、韓

国語の各クラスに分かれて受講。日本語クラスには35人が参加し、牧田健一元330‐B地区ガバナー、団英男元335‐A地区幹事、井村一男元337複合地区議長が講師を務めた。講義はディスカッションやロール・プレイなどの手法を用いた内容で、コミュニケーションやプレゼンテーションの技術などを学んだ。日本の参加者は35人中、31人が副地区ガバナーということもあり、近い将来、地区運営を担うリーダーの実践的な学びの場となった。参加者からは「カリキュラムが進むにつれ仲間との気心も知れ、助け合い支え合いのチーム研修となっていることを感じた」「アメリカで作成されたカリキュラムで難解な部分もあったが、大半はリーダーとなるために有益な講義ばかりで、今後の自分の立場を改めて認識し自信につながった」「研究会は講師の教えを基礎にして自分の考えをまとめ、皆で考え発表し自分の糧にすることが目的。このような見方も出来るのか、このような考え方もあるのかと感じた」などの感想が寄せられており、その成果がうかがえる。

OSEAL地域推薦の国際理事候補者

タイ・パタヤで開催された第48回OSEALフォーラムで、OSEAL地域の2010〜12年国際理事候補者2人と2010‐11年度国際第2副会長候補者の推薦が決議された。国際理事候補者は日本の山浦晟暉元協議会議長（東京新宿ライオンズクラブ）と、台湾のタールン・チャン元地区ガバナー。山浦ライオンは73年入会、91年度クラブ会長、96年度ゾーン・チェアパーソン、98年度リジョン・チェアパーソン、04年度地区ガバナー、07年度協議会議長を務め、05〜07年度CSFⅡナショナル・コーディネーター、08年から複合地区LCIFコーディネーターを務めている。なお、OSEALの国際理事定数は3人で、地域内の協定によるローテーションで残る一人は韓国から立候補することになっているが、今フォーラムでは立候補の表明がなかった。また国際第2副会長の候補者には、アメリカ・インディアナ州のウェイン・A・マデン元国際理事を推薦した。推薦を受けた国際理事候補者、国際第2副会長候補者は、7月にオーストラリア・シドニーで開催される第93回国際大会で選挙に臨む。

2008‐09年度 世界のアクティビティ

国際協会が2008‐09年度のアクティビティ報告の集計結果を発表した。報告書を提出したのは1万5579クラブ。集計によると1クラブが年間に奉仕活動に費やした時間は819時間。これを基に推計すると全世界の奉仕は3700万時間となる。会則地域ごとにクラブが実施した割合が最も多かった事業を見ると、東洋・東南アジアが献血（70％）、アメリカ及びその周辺は眼鏡収集（63）、カナダ、中南米・メキシコ・カリブ海諸島、ヨーロッパ、大洋州及びその周辺はいずれも高齢者支援（53、61、46、63）、インド・南アジア・アフリカ・中東は植樹（40）。

国際理事会で承認された日本へのLCIF交付金

9月29日～10月4日に開かれた国際理事会で承認されたＬＣＩＦ交付金は、一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を合わせて46件、総額２１８万４４６８ドル）だった。このうち、日本に交付されたのは４件（一般援助交付金２件、国際援助交付金２件）計15万３千ドル。

▼334－Ａ地区＝障害者職業訓練所の拡張４万３千ドル▼334－Ｅ地区＝第35回フィリピン医療奉仕３万ドル（国際援助交付金）▼334－Ｅ地区＝フィリピンでの歯科医療奉仕３万ドル（国際援助交付金）▼336－Ｂ地区＝聴覚障害者協会備品１万ドル。

これらを含む全交付金リストは国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）のＬＣＩＦページに掲載されている。

日本の会員の平均年齢は61・1歳「クラブ・アンケート」集計

『ライオン』誌では毎年９月に全クラブ対象のアンケートを実施している。今年度アンケート（回収率52・2％）の集計結果のうち、入退会者調査（年代別人数、在籍年数など）やクラブ運営状況（入会金、年会費など）は12月号「ＴＨＥＭＥ：ライオンズクラブ統計」に掲載したが、他に会員の年代別人数と平均年齢（別表）、重点アクティビティについても調査した。その結果、会員の６割が60歳以上で、平均年齢は61・1歳。また、今年度クラブが重点的に取り組むアクティビティ分野を選択肢から選ぶ質問では、最も多い回答は青少年関係（79・3％）、以下、献血（76・9）、地域清掃（59・8）、薬物乱用防止（47・0）、障害者福祉（35・1）と続く。

このクラブ・アンケートの複合地区別集計結果は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）でダウンロード出来る。

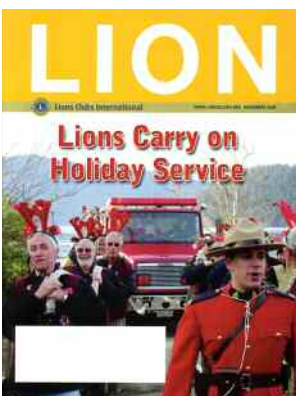
●会員の年代別人数と平均年齢（2009年クラブ・アンケート）

複合地区	330	331	332	333	334	335	336	337	合計
20歳代	0.2	0.2	0.4	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2（%）
30歳代	3.3	3.2	3.6	3.4	2.0	2.7	3.2	4.9	3.2（%）
40歳代	10.2	10.9	12.0	12.5	11.2	11.0	11.9	12.3	11.5（%）
50歳代	17.8	27.2	29.1	26.8	24.2	19.2	25.9	28.6	24.3（%）
60歳代	32.7	35.3	35.3	35.0	38.0	31.8	34.8	32.5	34.5（%）
70歳以上	35.8	23.2	19.6	22.1	24.5	35.1	24.1	21.5	26.3（%）
平均年齢	62.5	61.1	60.0	60.7	62.1	62.3	61.3	59.8	61.1（歳）

２０１０年国連ライオンズ・デーはウィーンで

第32回国連ライオンズ・デーは２０１０年３月26日にオーストリアのウィーン国際センターで開催される。ウィーンはニューヨーク、ジュネーブに次ぐ国連都市と言われ、同センターは国連の諸機関が入る複合施設。アメリカ・ニューヨークの国連本部以外で開かれるのは初めてのことで、本部ビルが改修工事中のため会場が変更された。世界各地からライオンズが集い、国連代表者によるスピーチや国際平和ポスター・コンテスト授賞式などが行われる他、音楽会も計画されている。参加者は申し込み先着３５０人まで。お問い合わせは国際本部へＥメール（programs@lionsclubs.org）で。

国連とライオンズクラブとの関係については、公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「国連ライオンズ・デー」のページに詳しく記されている。

今月号から『ライオン』誌日本語版リニューアル

今月号から本誌の英語の誌名、ロゴ、表紙デザインが新しくなった。09年７月の国際理事会で誌名を「The Lion Magazine」から「Lion Magazine」とする理事会方針書の変更が、更に９／10月の国際理事会で公式ライオン誌における協会の新ブランド反映の推進が決議されたことを受けて、ライオン誌日本語版委員会が決定した。協会が昨年度から進めるブランド・リニューアルでは各種ロゴ、イメージ・カラーの刷新の他、公式ウェブサイトのデザインも一新。これに伴い『ライオン』誌本部版（写

真）は09年1月号から表紙デザインに新ロゴを使用しており、国際理事会の決定はこれを追認したもの。日本語版では新ロゴ採用と共に、イメージ・カラーを効果的に用いるよう誌面デザインも変更した。

若手会員フォーラム・フォローアップ・アンケート

今年度『ライオン』誌編集方針の一つに、今年3月に開催した「ライオンズ若手会員フォーラム」（09年6月号THEME）のフォローアップがある。委員会ではフォーラムの成果と参加者のその後の動向を探るべくアンケートを行った。09年10月実施、回答者16人。集計結果は以下の通り。

Qフォーラム終了後、他の参加者との交流はありますか？（複数回答）
・参加者同士で個人的に情報交換を行っている：12
・所属クラブ同士で交流している：4
・所属クラブ同士でアクティビティ計画／実施：2
・特に交流はしていない：4

Q若手フォーラムに参加したことで、自身のライオンズ・ライフに変化はありましたか？（複数回答）
・クラブの組織運営により関心が高まった：10
・クラブのアクティビティにより関心が高まった：10
・地区や全国レベルの情報により関心が高まった：13
・参加者同士のネットワークが広がった：11
・特に変化はない：1

Q所属クラブでは若手会員の増強、育成を目的とした取り組みが行われていますか？
・行われている：9　・行われていない：6
・分からない：1

Q入会から現在までに、所属地区で若手会員を対象としたセミナーなどの催しが開催されたことはありますか？　また参加したことはありますか？
・開催され、参加したことがある：6
・開催されたが、参加していない：1
・開催されているかどうか分からない：9

また、フォーラムの成果について次のような感想が寄せられた。「地域、クラブ間で運営方針やアクティビティに対する認識にかなりの相違があることが分かり、それらの情報も積極的に収集し、自クラブの運営に取り入れられる部分は生かしたいと思うようになった」「以前は与えられた役割を果たすだけであまり積極的ではなかったが、フォーラム以降はクラブや地区でのいろいろな活動に積極的かつ前向きに取り組むようになり、楽しくなった」「全国レベルでの意見交換が有意義だった。地区内でも推進して頂けるよう地区ガバナーにお願いしたい」

会議録

第2回複合地区YE委員長連絡会議（10月20日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：今井三和、深川明俊、坂井源一、切中厚美、松田毅、松本正福、志岐好春各委員長、清野一彦委員長代理）
①冬期交換②2009・10年度予算案③夏期交換情報④YE資金管理規程（案）について⑤その他

第4回ライオン誌日本語版委員会（11月10日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：不老安正国際理事、秋山詔樹、瀧澤嘉門、林静誠、砂田繁雄、大島康男、小田邦雄、塩倉安伸各委員、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー）
①ニューオーリンズ国際理事会におけるライオン誌関連決議事項②11月号（10万8900部発行）出来③12月号記事内容の確認④10年1月号以降台割（案）と主要記事予定⑤オンライン報告システムServannA⑥ライオン誌日本語版事務所の運営⑦その他

第3回複合地区国際大会委員長連絡会議（11月11日／出席者：桜井孝一、古谷野環、佐々木貞夫、眞尾博、滝澤巖、岡田宏、三谷智省、榎本巳之助各委員長、不老安正国際理事）
①第48回OSEALフォーラム（09年11月19日～22日／タイ・パタヤ）②第93回国際大会（10年6月28日～7月2日／オーストラリア・シドニー）

解散／合併クラブ

解散クラブ
10月＝宮城県・古川グリーン／広島県・神石豊松（合併）／島根県・八束　11月＝神奈川県・横浜VP・NET／千葉県・市原中央／香川県・高松愛

合併クラブ（合併前のクラブ）
広島県・神石高原（神石柚木／神石豊松）

訃報

献眼者
10月＝ライオン大木亮（千葉）／ライオン佐土一正（千葉県・船橋）／ライオン大里幹雄（茨城境）／ライオン池田利郎（長崎県・諫早中央）／ライオン竹内玄三（静岡県・奥浜名湖）／ライオン牧野健二郎（静岡県・富士マウント）

334～337複合地区（西日本）担当
GMTリーダー
高田順一

2008年度から3年間にわたり継続的に会員増強に取り組む「グローバル会員増強チーム(GMT)」。複合地区、地区とのチームワークで、会員増強の目標達成をサポートするGMTリーダー2人に、交替でチームの動向や担当エリアの会員増強の成功事例などを伝えてもらう。

11月19日から22日まで第48回OSEALフォーラムがタイ・パタヤで開催されました。組織委員会の発表によると、6085人の登録のうち日本が2238人、タイ1542人、韓国976人、台湾948人で、日本が最多の参加登録でした。

20日から22日までの3日間、ガバナー協議会議長と地区ガバナーは毎朝8時30分からソムサクディ・ロヴィス委員長が議長を務める会議で、各複合地区、準地区から提出される議題を協議しました。エバハルト・ヴィルフス国際会長を始めとする執行役員や、OSEAL地域の元国際会長、元国際理事も出席し、ライオンズのリーダーが一堂に会する会議です。

地区ガバナーの皆さんにとっては早朝から会議、式典そしてパーティーと続く大変忙しい日程になっています。その日程を調整し、フォーラム3日目の21日午前11時から日本の地区ガバナー・チームとGMTエリア・リーダーの会議を開催致しました。同時刻にはウィンクン・タム国際第2副会長と第2副地区ガバナーの会議が開催されたため、地区ガバナー、第1副地区ガバナーの皆さんに出席して頂きました。

GMTは年間の目標を四半期ごとに見直しながら実行していく仕組みになっています。すべての地区ガバナーからGMTエリア・リーダーあてに第1四半期会員増強活動報告を提出して頂きました。9月末までの状況を見ると、日本全体で2クラブが結成されましたが、24クラブの解散が報告されています。日本は新クラブの結成が少なく、クラブの解散が多いことが国際協会から指摘されています。また3カ月間で3102人の新会員がありましたが、2553人の退会者があり、会員数は549人の純増となっています。

今回は6割の地区ガバナーから、当初の会員増強目標を達成出来るとの力強い報告を頂きました。その一方、4割の地区ガバナーは計画を修正する必要があると考えています。

会議では新クラブ結成や会員増強で実績を上げている地区ガバナーから報告を頂き、成功事例を共有しました。第1副地区ガバナーの皆さんには全地区にMERL委員会の設置と、その機能、チームワークの活用、そしてクラブの会員増強計画に基づく次期地区会員増強計画の作成をお願いしました。また第2四半期報告に「クラブにおける退会防止ワークショップ」の実施報告を付け加えることを提案し、同意を頂きました。各クラブ会長は「クラブにおける退会防止ワークショップ」を実施する共に、キャビネットへ報告して頂きますようお願い致します。

8. 第2副地区ガバナーの任務と責任を拡大し、滞納金を理由とする停止処分を受けたクラブを支援する必要を含めた。

■財務及び本部運営委員会

1. 黒字となる2009-10年度第1四半期収支予想を承認。
2. 「ライオンズクラブ国際協会職員退職年金プラン」及び「ライオンズクラブ国際協会401(k)プラン(退職年金積立プラン)」資産の管理会社としてCharles Schwab Trust Companyを承認。
3. 2010年国際大会で提示・採択すべく、会費に関する規定を国際会則から国際付則に移す決議案を起草するよう会則及び付則委員会に要請。
4. 財務及び本部運営委員会の目的、必要条件、並びに任務を改訂。
5. 新たな銀行口座の開設に関し理事会方針を変更。
6. 理事会方針を変更。会費調整の要不要を決定すべく、毎年10月/11月理事会において5カ年予算案を見直すよう義務付けた。
7. 休息日に関する理事会方針を明確にするための瑣末な改訂を承認。

■LCIF執行委員会

1. 慈善寄付年金と永続的な寄贈を支えるため委託されているLCIF資金の、資産配分を変更。
2. アメリカ・オンコセルカ症根絶計画(OEPA)のためにカーター・センターに交付された補助金につき、プログラム変更後の活動を承認。カーター・センターの要請により、マリ及びニジェールにおけるトラコーマ抑制のための補助金交付を撤回。
3. 視力ファースト技術サービス提供に関する世界保健機関(WHO)との3カ年契約を1,481,430ドルにて更新。
4. 「ライオンズ―スペシャルオリンピックス・オープニングアイズ」プログラムを延長するための100万ドルの交付金を承認。
5. 46件(総額2,180,468ドル)の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を承認。
6. 合計6件の交付金申請を継続審議事項とした。
7. 事業立ち上げ交付金プログラムの基準と規定を改訂。
8. 「支局」承認の申請を提出し、財団のインド・ムンバイ事務局の運営に対するインド準備銀行からの必要な承認を求めるために必須の決議を承認。

■リーダーシップ委員会

1. 2010年地区ガバナー・エレクト・セミナーの日程及びカリキュラムを承認。
2. 2010年地区ガバナー・エレクト・セミナーの中国語クラスのグループ・リーダーを承認。
3. 2010年地区ガバナー・エレクト・セミナーのスペイン語クラスのグループ・リーダーの1人を承認。
4. 地区ガバナー・エレクト・セミナー講師の任命とその後のあらゆる変更に関する承認の責任を、6月/7月または10月/11月の理事会から、8月の執行委員会に移管。
5. 2009年7月に廃止された地方講師育成研究会プログラムに関連する理事会方針書の項目を削除。

■長期計画委員会

1. 中国関係調整委員会の構造と任命手続きを変更。
2. ライオンズ・キューバ調査ステアリング委員会の構造を変更。

■会員増強委員会

1. 現存の会員が会員種別を「レオ・ライオン」に変更するための手順を規定。「レオ奉仕完了証書(LEOCMC)」のコピーと「学生会員及びレオ変換証明書(STU-5)」の提出が必要となる。
2. クラブ支部コーディネーター及び副コーディネーターの役職を廃止し、会長、幹事、会計の役職を設置。
3. クラブ支部会長が親クラブの理事会メンバーとなることを承認。
4. 会員5人をクラブ支部発足の条件とすることを承認。
5. エクステンション・アワード受賞のためには、クラブが1年と1日存続していなければならないとの条件を承認。
6. 新クラブを結成した前地区ガバナーに対して、任期翌年の6月1日以降に地区ガバナー賞を発行することを承認。
7. 北米における飛行機予約手順の変更を反映した、2009-10年度グローバル会員増強チーム監査規定を承認。

■PR委員会

1. アメリカ外での広告費用としてPR予算に15万ドルを追加。
2. 会長メダルを1,125個、リーダーシップアワード・メダルを1,280個に増加。
3. 写真コンテスト及びPRアイデア・コンテストを廃止。
4. 公式『ライオン』誌に対し、新ブランドの反映と、運営及び編集方針の順守を推進。

■奉仕事業委員会

1. レオクラブ・プログラム諮問パネルのメンバー及び補欠員を務めるレオ及びライオンを指名。

上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト(www.lionsclubs.org)でご覧頂くか、国際本部(電話:630-571-5466)にお問い合わせください。

国際理事会の決議事項要約
アメリカ·ルイジアナ州ニューオーリンズ
2009年9月29日～10月4日

■監査委員会

1. 2009年6月30日付けのライオンズクラブ国際協会及びライオンズクラブ国際財団監査報告を承認。

■会則及び付則委員会

1. 協会の方針、手続、及び慣例において、「配偶者」という言葉に代わり「成人の同伴者一名」またはその他適切な表現と置き換えることを承認。これは即時有効なものとし、運営上可能な限り直ちに、かつ最大範囲で実施されるものとする。
2. 法律部長兼幹事に、賠償責任に関する法的措置と弁護継続の権限を付与。
3. 理事会方針書第15章別紙Aへの事務的改訂を承認。
4. 理事会方針書第15章別紙G「プライバシーに関する方針」にレオクラブ会員を含める改訂を承認。

■大会委員会

1. 2010年シドニー大会におけるレオ登録料を、12～17歳のレオは10ドル、18～30歳のレオは80ドルと制定。(通貨は米ドル)
2. 2010年シドニー大会における日割り許容額を制定。
3. 今後の国際大会入札における希望大会開始日を変更。
4. 国際大会のために必要な大会会場利用日数を変更。
5. 資格証明手順を改訂。クラブ幹事にあてた「代議員及び補欠代議員証明用紙」の送付を廃止、これに代わって、同用紙を大会登録確認書と共に国際協会ウェブサイトに掲載、更に同用紙をライオン誌2月号と4月号に掲載するものとした。国際大会会場での署名権限を持つ者として、第2副地区ガバナーを追加。

■地区及びクラブ・サービス委員会

1. 遺憾ながらGuayaquil Urdesa Norteライオンズクラブの解散を承認。
2. 115CN地区（ポルトガル）地区ガバナーの空席に対し、Joaquim Gasper de Melo Albino元地区ガバナーを任命。
3. 2010年国際大会の終了をもって、中国・青島（チンタオ）を暫定地区として新たに承認することを決定。
4. 2009-2010年度のコーディネーター・ライオンを任命。
5. 5複合地区（カナダ／アメリカ)、355複合地区（韓国)、307-A地区（インドネシア)、301-B地区（フィリピン）より提出された地区再編成案を承認。
6. 「再編成功労賞」を「クラブ再建アワード」に変更し、ステータスクオ、活動停止処分、解散からクラブを救済したライオン、または会員15人未満の弱体クラブを20人以上の活発で存続可能なクラブとして再建したライオンをたたえるものとした。
7. クラブ合併の際に、要請に応じてクラブ合併証明書を発行することを決定。

Lions Clubs International Foundation

4半世紀の間、進化し続ける ライオンズクエスト・プログラム

ドイツ・ラインシュテッテットにあるマルティン・ニーメラー中学校は5年前に初めてライオンズクエスト・プログラムを導入した。地元ライオンズクラブの協力の下で実施されたライフスキル教育は、学校に大きな成果をもたらした。ある生徒はプログラムで学んだスキルを活用して、校内のいじめ問題解決に取り組んだ。プログラム受講後は多くの生徒が、考えて行動することはもちろん、10代の青少年特有の悩みや不安に対処するスキルを身に付けることが出来るようになる。

「ライオンズクエストを体験したことで、自分の抱える悩みや問題を先生に打ち明けられるようになりました。他人を信じ、行動することを学べたと思います」

と、3年生のマルビン君は話している。

暴力から身を守るためのスキルは、ライオンズクエストが実施されてきた25年の間で、常に重要視されてきたものだ。幼稚園から高校まで学校規模で導入されるプログラムでは、主に責任のある意思決定、効果的なコミュニケーションのとり方、薬物使用を回避するための方法を学ぶ。

現在、ライオンズクエストは世界50カ国で実践されている。過去にライオンズクエストを受講した青少年は1千１００万人以上、また35万人以上の教育関係者や地域住民がプログラム実施のためのワークショップに参加した。ライオンズクエストは教育関係者から多くの称賛を受け、また世界各国の政府機関からも高い評価を受けている。

「我々ライオンズクラブは、青少年とは未来そのものであると考えています」

と話すのは、エバハルト・Ｊ・ヴィルフス国際会長。

「私の夢はこのライオンズクエストを、世界60カ国以上で採用してもらい、ライオンズクラブ国際財団（ＬＣＩＦ）の教育プログラムの主軸にすることです」

アメリカでは更なるプログラム発展のため、新学期初めに「地域のヒーロー」コンテストの開催を呼び掛ける。このコンテストは、複数のライオンズクラブとライオンズクエストを受講するクラスの混成チームを編成し、共同奉仕プロジェクトに従事。学期末には、最も優れたチームが表彰されるというものだ。優勝した生徒たちはピザ・パーティーで祝福を受け、優勝したライオンズクラブはアルバート・ブランデルＬＣＩＦ理事長の訪問を受ける。こうした活動の最新情報は、ＦａｃｅｂｏｏｋやＴｗｉｔｔｅｒなどのソーシャル・ネットワーキングで検索が可能だ。

２００９年の国際大会で紹介されたライオンズクエストの最新ＤＶＤやパンフレットは現在、無料で提供されている。また、ライオンズクエストに対して25ドル以上の献金をした会員には、記念品が贈られる。

「ライオンズクエストには、初めから可能性を感じていました。ただ、これほどまで長くこのプログラムに携わるとは想像していませんでした。学生生活にもたらす成果は計り知れません」

とは、ドイツ・ラインシュテッテットのライオン ハンス・リヒター。彼はより多くのライオンズが、プログラムに参加することを願っている。

SightFirst Update

奉仕活動の呼びかけに集まるライオンズ

アイオワ州の小都市リバティシティのライオンズは最近、21人の子どもたちを対象に視力検査を実施した。普段と何ら変わらない奉仕活動であった。ところが、検査を受けた子どもの一人が、児童の視力検査を支援するLCIF四大交付金事業における、100万人目の受診者となったのだ。

ジャナン・ラスタンは、彼女の息子グラント（4歳・写真）の視力検査をしてもらった礼を言うため、ライオンズの元へやってきた。検査の結果、グラントは児童が失明する主な原因である、斜視の危険性があると診断された。医師は数カ月間、グラントの左目に眼帯を着用することで視力は1・0まで回復するだろうと話した。

「ライオンズには感謝しても感謝しきれないほどです。今回の視力検査を受診しなかったら、息子は失明していたはずです」

とジャナンは言う。

アメリカのボランティアに関する最新の報告書によると、経済は不況だが、ボランティアへの意欲は上向きである。2008年に約6200万人のアメリカ人が、ボランティア活動に従事しており、07年に比べ100万人増えていることになる。

「今後も更に多くのアメリカ人が、ボランティア活動に従事してくれるよう、働きかけたいと考えています」

と、アル・ブランデルLCIF理事長は力説する。

テネシー州ラリーバートレットの住民である53歳のブレンダ・ニコルズは、5月に仕事を解雇されて以来、ミッド・サウスライオンズクラブと奉仕活動を共にすることが多くなった。ブレンダにとって特に視力検査が重要な活動となったのは、彼女自身が円錐角膜という眼病により失明寸前となり、

角膜移植を受けた経験があるからだ。

「ライオンズの活動は、極めて重要です。私は皆さんに、目が見えるのが当然のことだと考えないように、と話しています。私自身、視力を失いかけて、7年間も機能的に失明に近い状態で暮らしてきた経験から、視力の贈り物は、実際に視力を失うまで、そのありがたみに気が付かないものだということが分かりました」

と、ブレンダは話す。

テネシー州メンフィスのライオンズは最近、移動式視力検査用トラックで、児童を含む102人の貧困家庭の人たちを対象に屈折障害、緑内障、糖尿病網膜症などの検査を実施し、複雑な症状を持った人は、ハミルトン眼科施設にあるミッドサウス・ライオンズ診療所に紹介した。また、LCIFは角膜移植、白内障手術、多数の糖尿病網膜症レーザー治療などを含む7件の手術の費用を低所得者に提供した。

バージニア州レストンでは、ライオンズはジーニー・シュミット無料診療所と協力関係を結び、2台の移動式視力検査用トラックで、保険に入っていない人、または十分な保険に入っていない人99人を対象に、緑内障や聴覚障害の検診を行った。レストンライオンズクラブの呼び掛けにより、その地域のライオンズも検診を手伝い、また新たに5人がライオンズの会員になった。

メリーランド州ゲイサーズバーグのライオンズは、ステート・フェアで視覚及び聴覚障害の検診を9日間実施した。期間中、100人以上のライオンズが参加し、就学前の児童136人を含む約500人の検査を行った。また、この活動によって、ゲイサーズバーグのライオンズは新たに24人の会員候補者を獲得したのである。

クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は56ページ参照

神奈川県・海老名飛鳥ライオンズクラブ

楽しみながらエコロジー、地域に根差したエコマーケット

11月8日の日曜日。神奈川県海老名市の海老名飛鳥ライオンズクラブ（廣﨑雅章会長／33人）と国際ソロプチミスト海老名が海老名市役所駐車場でエコマーケットを開催した。

エコマーケットとは、いわゆるフリーマーケットのこと。これにより循環型社会形成の第一歩として、リユース（再利用）の促進を目指そうというわけだ。

ライオンたちは開催日の2日前に会場を設営。当日も早朝から準備に当たり、市役所脇の駐車場に途切れることなく入場してくる出店者の車を誘導した。9時40分に販売が始まると、会場には大勢の周辺住民が訪れ、一気ににぎやかに。中には人だかりが出来て、なかなか店先までたどりつけない店舗も出現するほどの盛況振りであった。このエコマーケットは年に1回開催され、今年で18回目を迎える長寿イベント。

出店者は140人以上、来場者も1万人を数える。ライオンズの地道な取り組みによって、この催しが地域にしっかり根付いているのがうかがえる。

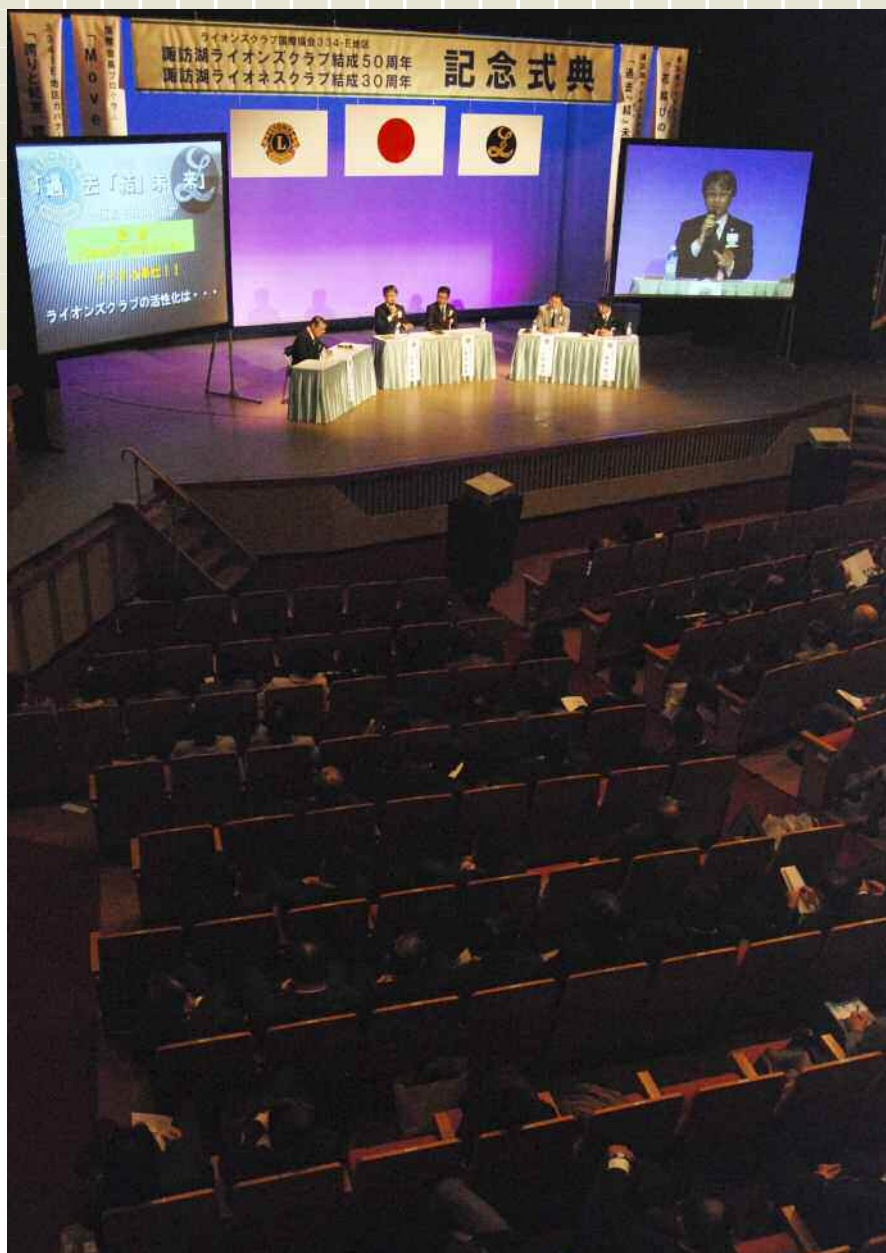
会場を提供した海老名市の内野優市長は「環境問題は行政、民間が一体となり取り組むべき課題。エコマーケットは民間主導型の環境イベントとしてとても有意義だと思う」と語った。

行政から一定の評価を受ける中、廣﨑会長はこのアクティビティの更なる充実も視野に入れているという。「今後はこの集客力を生かし、エコに関する展示やイベントを併設することで、周辺市民の環境問題への関心を高めていきたい」と意気込みを述べた。

エコマーケットは楽しみながら、リユースを促進する場。環境問題に関心を持つきっかけづくりとして最適と言える。この活動をベースに、更なるエコの啓発を目指すライオンたちの今後の取り組みに期待したい。

（取材／安藤英則）

長野県・諏訪湖ライオンズクラブ

過去と未来を結ぶ50周年記念式典

11月14日、長野県諏訪市の諏訪市文化センターで、諏訪湖ライオンズクラブ（佐久秀幸会長／82人）50周年と諏訪湖ライオネスクラブ（北原憲子会長／45人）30周年の記念式典が開催された。

諏訪湖ライオンズクラブは50周年を、過去と未来を結ぶ折り返し点と位置づけ、記念式典を二部構成で企画。第二部では「どうする奉仕‼ ―ライオンズの存続を問う―」のテーマで、パネル・ディスカッションを行った。

パネリストには本誌2008年6月号のTHEME「新世代ライオンズ」の鼎談に登場した川手寅平（山梨アカデミー ライオンズクラブ）、武者眞博（宮城県・仙台青雲ライオンズクラブ）、清水直喜（福井県・敦賀みなとライオンズクラブ）の3人の若手会員を招請。これに諏訪湖ライオンズクラブの増澤義治幹事が加わり、「ライオンズクラブの『魅力』は……」「ライオンズクラブの『活性化』は……」「ライオンズクラブの『ありたい姿』は……」の三つのテーマで話をした。

「魅力」については「経験を通じて自分の成長が確認出来る」「60歳、70歳になった時にこうなりたいという手本が身近にいる」といった意見が出され、「活性化」では「継続事業の見直し」「若い会員の招請」などが提言された。また、最後の「ありたい姿」に対しては、「地域のシンクタンク化」「帰属意識が持てるようなクラブ」という意見が出される一方、「全国、また世界中に同志がいることのすばらしさ」「年齢も経験も異なるさまざまなメンバーとの雑談の効用」など、ライオンズクラブが本来持っているリソースの見直しや掘り起こしを呼び掛けるものもあった。全般的には、ディスカッションを通じてクラブのDNAを次世代に伝えることが大切だとの共通認識を持つことが出来、過去と未来を結ぶという諏訪湖ライオンズクラブのテーマにふさわしい式典となった。（取材／鈴木秀晃）

335-B地区第5リジョン（大阪府）

「里地・里山づくり」の活動

10月25日、これ以上はないというほどの秋空の下、第5リジョンは地区環境保全アクティビティの一環として、秋の収穫祭を盛大に開催した。阪口善雄吹田市長（吹田ライオンズクラブ名誉会員）、吉田宏第1副地区ガバナーを始め、メンバーやその家族ら81人が参加した。

当リジョンには、千里北公園東部地区の荒れ地に里地・里山を作り、将来はホタルを飛ばそうという壮大な計画がある。現在はその1年目を無事に終え、2年目に入ったところ。最初は現地視察から始め、次にジャガイモ、サツマイモ、ソバを植え付け、5月には田植え、そして10月の稲刈り、収穫祭と、予定通りに執り行うことが出来た。

11月29日には、いよいよ「小川づくり」に着手する。今まで田んぼに放流していたメダカ、ドジョウ、フナがたくさん子どもを産んでくれた。その子どもたちを小川に放して育てると共に、念願のホタルの幼虫も育てていく。

4年後には、私たちが育てた源氏ボタルが千里の街を乱舞し、地域の子どもたちが喜んでくれる姿を夢見て、ますますがんばっていきたい。

（第5リジョン環境保全委員／西川文男）

青森県・八戸城北ライオンズクラブ

スピードスケート選手権開催

八戸城北ライオンズクラブ（大渡桂会長／23人）は10月10、11日の両日、八戸市新井田インドアリンクで「第17回東北ショートトラックスピードスケート選手権大会」兼「第16回東北ホープスショートトラックスピードスケート選手権大会」を開催した。前者は中学、高校、大学生を、後者は小学生を対象とした大会で、当クラブが青少年健全育成を目的に、17年間継続しているアクティビティである。

今年は東北6県から約43人の選手が参加。５００メートル～千メートルまで、男女それぞれ7種目が行われた。男子では下山和也君（東北ＳＣ所属／21歳）が3種目を、女子では工藤真紀子さん（八戸西高／15歳）が2種目を制した。残念ながら入賞出来なかった選手も含め、すべての精鋭たちのはつらつとした競技を目の当たりにする度に、奉仕の気概を強く感じる。

子どもたち、若者たちが、スポーツを通じて真っすぐに力強く成長してくれることを願う。また、スケートやアイスホッケーが盛んな「氷都八戸」発展のため、選手育成の一助となればと思っている。

（事務局／尾崎裕造）

岡山県・美作ライオンズクラブ

竜巻及び水害被害への支援

7月19日、岡山県美作市安蘇地区を竜巻が襲い、１１０戸の家屋が被災した。農作物と併せ約4億円の被害額となった。美作ライオンズクラブ（17人）は復旧のために336・B地区の協力を得ようと、地区緊急援助資金の申請をした。

ありがたいことに早々に地区から１００万円、また332・C地区からも15万円の義援金を頂いた。中本博泰ガバナーも美作市へお越しくださり、8月4日に当クラブを通して市へ災害見舞金を贈呈することが出来た。

その後、地区を通じてＬＣＩＦ緊急援助金1万ドルが交付され、336複合地区からも災害支援金の30万を、更にこの10月に岡山マスカットライオンズクラブから結成15周年記念事業の一環として災害義援金を頂いた。

美作市は8月9日にも別地区で水害（床上床下浸水等６２５件、道路河川被害約8億円、農業・林業被害約12億円）に見舞われている。

各地からお寄せ頂いた合計２５０万円相当の援助は一日も早い復興のために活用させて頂いている。皆様の奉仕の精神に感謝し、この欄をお借りしてお礼申し上げます。（会長／難波和保）

333-B地区第2リジョン第2ゾーン（栃木県）

渡良瀬遊水地の清掃

333-B地区第2リジョン第2ゾーン（川俣康利ゾーン・チェアパーソン）は10月11日、ライオンズ奉仕デーの合同清掃アクティビティを実施した。毎年、ゾーン・チェアパーソンの所属クラブ地域で行っており、今年は県南部、藤岡町にある渡良瀬遊水地が清掃場所だ。

面積3300ヘクタールの日本最大の遊水池で、洪水に備えるだけでなく生活用水の確保にまで働きを広げ、利根川流域の人々の暮らしを支えている。遊水池南部に貯水池・谷中湖があり、北部はゴルフ場、運動公園などに利用されている。

当日の参加者は103人。永島源作藤岡町長のあいさつの後、午前10時から5班に分かれて清掃を開始。台風一過の晴天の下、ゴミ袋と遊水池マップを手に散策をしながら汗を流し、約2時間で紙ゴミ、ペットボトルなど3立方メートルを集めた。

イラスト／篠田和夫

施設管理者によると粗大ゴミを始め相当量が投棄されているらしいが、地理的に不案内な者も多く、分かりやすい所の清掃だったためか、思ったよりもゴミは少なかった。

清掃終了後、町田郁夫リジョン・チェアパーソンからねぎらいの言葉を頂き、昼食を食べながら参加者間の親睦を深めた。（ゾーン総務／酒井一則）

富山県・滑川有恒ライオンズクラブ

新規婚活事業「なめりかわ恋物語」

大安吉日の10月10日、滑川有恒ライオンズクラブ（41人）の企画で、滑川市では初めての婚活（結婚活動）「なめりかわ恋物語」を開催。募集人数・男女各30人のところ180人もの応募があり、市、県内在住に限定させて頂いたが、それでも120人に拡大しての「出会い」になった。

当日は元県女性総合センター館長のライオン山下節子と、映画『逢いたい』を製作した地元出身の浅井康博監督のトークショーから始まった。22歳から45歳までの参加者はスイーツや多彩なグルメを味わいつつ、ビンゴゲーム、ペア作りの抽選、グループでの会話、メール交換などに楽しくかつ真剣に取り組んでいた。

後半には市長が歓迎の熱弁を振るい、場を盛り上げた。結果は二つのカップルが誕生。今後、彼らの愛が深まりうれしい便りが届くことを心待ちにしている。また、これを機会に、更に多くのカップル誕生を期待している。

数日後、市内企業に勤務する男性からメールが届いた。「当市初の開催ということで参加しました。今回は残念ながら縁がありませんでしたが、駐車場や受付など、会員のさまざまなご労苦に心から感謝します」と記されていた。

市内中小企業経営者は30代前後の男女未婚従業員を雇用しており、彼らが地元で伴侶を得て職場で長く活躍してくれることを強く望んでいる。私もその一人。今年度最初の例会で、婚活のアクティビティの企画を宣言した。市を始め各方面から後援を頂き、また市民の言葉に勇気づけられて実現することが出来、結果は大成功であったと自負している。時代に即応した奉仕活動として今後も続けていけることを期待している。（会長／細川文博）

東京スピリット21ライオンズクラブ

わいわい祭りにジャガバター出店大成功！

東京スピリット21ライオンズクラブ（川辺日出海会長／10人）は8月23日、東京・広尾にある児童養護施設・福田会の「わいわい祭り」に協力。ここに暮らす子どもたちと一緒に施設の敷地内で育てたジャガイモでジャガバターを作り、模擬店で販売した。

福田会は、明治9年に仏教各宗の高僧の発議によって設立。寺院を中心に恵まれない子どもを保護したり、里親を募るといった活動を開始した。第1次大戦の終結時にはシベリアに残されたポーランド人の孤児375人を受け入れ救済したこともある。

福田会でジャガイモ畑を作ることにしたのは、食物が育つ現場に触れる機会が少ない都心の施設に暮らす子どもたちの、食育の一助になればと思ったため。農作業は初めてというメンバーも少なくなかったが、もしうまく育たなくても、「食べ物は簡単には出来ない」ことを学べるだろう。植え付けをした4月6日から月に3～4回の手入れを続けたかいあって、芋は元気に育ち、8月10日に子どもたちと一緒に収穫祭が出来た。そして、収穫したジャガイモを使ったわいわい祭りでの出店が、見事実現したのである。

祭りの日。施設のグラウンドでは子どもたちがソーラン節を披露。複数のボランティア・グループの、フランクフルト、焼き鳥、ジュースなどの店、そしてライオンズのジャガバターとヨーヨーの店も並んだ。子どもたちは手塩に掛けた芋を頬張りうれしそうだった。食堂は児童の作品展示会の会場となった。一般のお客さんも見えて、わいわいとにぎわいだ夏の夕べとなった。

（幹事／栗田久永）

静岡県・沼津駿河ライオンズクラブ

「北海道まるかじり」で資金調達

さて今年も、沼津駿河ライオンズクラブ（神部勝会長／25人）が主催する「産地直送販売」がやってきた。早いもので今回で既に6回目。

この夏は天候不順で品物の確保が難しく、また入荷価格もギリギリまで定まらずにヒヤヒヤさせられたが、10月4日、無事滞りなく実施することが出来た。「終わり良ければすべて良し」である。

「北海道まるかじり」と銘打った同事業、北海道からジャガイモ、タマネギ、カボチャを入荷、販売するもの。昨年までは当クラブ会員を通じて家庭やご近所、会社などで注文を募っていたが、今年は沼津地区にある4クラブ（沼津、沼津千本、沼津香陵、沼津中央）にもご協力頂き、10キロ入りを500箱売り上げた。

収益は事業資金として、青少年育成事業に活用する。具体的には本年度、我がクラブが重視している薬物乱用防止事業や、沼津子ども会連絡協議会、沼津水泳連盟主催の諸行事への協賛などだ。地域の皆さんには、新鮮な大地の恵みに舌鼓を打って頂きつつ、それが子どもたちの健全育成に役立つということをPRしていきたい。

今年度は更に、当クラブ・メンバーが経営する会社を通じて、地場産「沼津のひもの」の直販も実施する予定だ。

（幹事／船越隆二）

愛媛県・新居浜ひうちライオンズクラブ

別子銅山子ども探検隊

新居浜ひうちライオンズクラブ（横井文明会長／39人）は2006年度に結成10周年記念事業として、愛媛県立新居浜南高等学校情報科学部の生徒たちを支援して、「近代化産業遺産ガイドブック」を作成した。この縁から、クラブが市教育委員会と共催で取り組む「別子銅山子ども探検隊」で、同校生徒にガイド役を務めてもらっている。事業の目的は、児童が別子銅山の現地学習を通じて先人の遺業を知り地域を愛する心を持つこと、登山により忍耐力を育み、友達との協力から仲間意識、連帯感を培うことにある。

今年は10月24、25日に実施した。参加者は市内の小学校高学年児童34人、高校生8人、それに教育関係者とライオンズ会員を含め総勢61人。日浦登山口から紅葉を愛でつつ登り始めると、登山道にはさまざまな別子銅山の史跡があり、高校生は日頃の学習成果を発揮し真剣に説明してくれた。子どもたちに根気よく丁寧に教える姿に感動を覚えた。最初の坑道、歓喜坑で昼食を取り、銅山峰の頂上に到着。あいにくうっすらとガスがかかった状況だったが、山頂からの展望はすばらしい。下りは険しく、子どもたちは何度も尻もちをつきながら、何とか銅山の里少年自然の家に到着。夕食には皆で協力してカレーライスを作り舌鼓を打った。

夕食後は薄い銅板の折り紙で鶴作り。悪戦苦闘の末、世界に一つの作品を作り上げた。秋の夜長はワイワイガヤガヤ、多くの友情が生まれた。

2日目は、東洋のマチュピチュと呼ばれる東平地区を散策。その後「広瀬歴史記念館」を訪問し、別子銅山の初代総理事・広瀬幸平、別子の山々に緑を残した伊庭貞剛らの偉業について学習し、全日程が終了した。

児童らは疲労困憊の中にも完遂した自信にあふれていた。大人、高校生、新たな友人との出会い、きっと大きな感動があったはずだ。今後も次代を担う子どもたちの心に、将来きっと花開く体験の種を蒔き続けていきたい。

（青少年委員長／塩崎卓）

栃木県・佐野中央ライオンズクラブ

年間12回の献血会

佐野中央ライオンズクラブ（恩田重男会長／34人）のアクティビティの一つに、毎月第1火曜日に実施している献血会がある。献血はポピュラーな奉仕活動だが、単独で年間12回開催しているクラブは多くはないだろう。

会場には佐野市内にあるイオン佐野新都市店にご協力頂き、正面玄関前のお客様用駐車スペース10台分を借りて、献血車2台を配車する。献血会の当日は、早起きして駐車スペースの場所取りから始まる。献血会専用クラブ・テントと看板を設置、赤十字献血センターの機器設置に協力した後は、PR用看板を片手に来店者に協力を呼び掛ける。

しかし、平日の昼間ということで、来店者の少ない午前や天候が悪い時など、なかなか協力者が集まらないこともある。近年では広報活動にも力を入れ、PR用ポスターを毎年作り市役所等の公共施設に掲示したり、佐野市広報等に案内を掲載してもらっている。そのかいあって市民にも徐々に浸透してきたようだ。当クラブの献血会はリピーターの協力者が多いのも特徴で、顔見知りになり「いつもありがとうございます」とあいさつを交わすことも出来るようになった。

毎月の活動なので、一部のメンバーだけに負担が掛からないよう、年間スケジュールを組み、手分けして継続している。屋外なので、夏の暑い日、冬の寒い日は大変だが、地域貢献と考え全員でがんばっている。

（幹事／山本正明）

徳島県・小松島ライオンズクラブ

高等学校との交流事業

小松島ライオンズクラブ（細田舜治会長／27人）は10月4日、本年度会長スローガン「一期一会」の下、小松島西高等学校との調理実習を通じての交流事業を実施した。

同校は商業、食物、生活文化、福祉各科を有する県内唯一の専門高校で、平成19年度から3年間、文部科学省の指定を受け「目指せスペシャリスト（スーパー専門高校）事業」研究開発に取り組んでいる。学校ではライフ・ステージに合った栄養や食事の取り方について、地域の方々に対する啓発活動を通じて研究を深めると共に、生徒と地域の相互理解を図っている。

当クラブとしては、専門高校との交流を図り、その取り組みを知ることで、これを小松島市の振興・発展につなげていけたらと考えている。

当日はクラブ・メンバー15人、学校から学校長・食物科の先生4人、3年生6人が参加。生徒が考案した、地域の食材を使った高齢者ソフト食及び生活習慣病予防食の調理実習を行った。

メニューは、主食に十六穀米と麦飯粟おこわ、副食ではマツタケ、ハモ等の入った「どびん蒸し」「太刀魚の金糸和え」「冬瓜のゆずみそ添え」「鰆の幽庵焼」「蓮根まんじゅう」他2品を作った。

生徒たちの指導の下、2時間掛けて完成。生徒たちと楽しく交流しながら全員で試食、講評をもらった。今後も小松島西高等学校との交流を通じ、青少年の育成と活躍を推進していくつもりだ。

（幹事／喜田和彦）

北海道・札幌北の杜ライオンズクラブ

「スポーツクライミングジュニアカップ」協賛

札幌北の杜ライオンズクラブ（後藤弘会長／63人）は結成3年目の発展途上中。ライオンズ未経験のメンバーがほとんどで試行錯誤の中、やっと新しいアクティビティを行うことが出来た。

9月22、23日、青少年育成事業の一環として、スポーツクライミングジム・レインボークリフで開催された「スポーツクライミングジュニアカップ北海道」に協賛。今回は札幌、富良野、遠軽の小学生から高校生までの67人が参加し、岩に模した人工の突起物がある高さ約10メートルの壁に挑んだ。

競技は3分以内で登りきる「リード」と、課題をクリアしながら難しいルートを制覇していく「ボルダリング」の2種。選手たちは自分の持てる力を発揮して一生懸命にチャレンジしていた。その様子に観戦者は心を打たれ、「ガンバレ、あきらめるな！」と声援を送った。競技を初めて見るクラブ・メンバーは、小学生が手足をめいっぱい使い巧みに軽々と登っていってしまうのを見て、上を向いて口を空けたまま唖然。「どっちが天井でどっちが床…？」などと錯覚してしまうぐらいだった。

クラブから優勝盾、メダル等を寄贈した。表彰式で後藤会長が選手の皆さんの首にメダルを掛けてあげると、子どもたちのうれしそうな笑顔が現れた。

クライミングを生で見るのは初めてだったが、選手の緊張感、チャレンジ精神は見る者を感動させる。この競技のすばらしさがもっと普及していくことを願う。

（PR情報委員長／菊田昭文）

大阪西成ライオンズクラブ

ひったくり防止カバーを配布

大阪西成ライオンズクラブ（26人）は、自転車の前カゴに付ける「ひったくり防止カバー」を千枚作成。毎年春と秋に行っている献血アクティビティの会場で500枚ずつ配布した。

実は当初は防犯カメラの設置を検討していた。大阪西成署に相談したところ、設置場所の選定や関西電力等の許可などに時間が掛かり、それよりもひったくり防止カバーの配布が早急に必要だということを知った。大阪府にはひったくり発生件数が33年連続全国ワースト1という不名誉な記録がある。そこで方向転換となった。

10月20日に西成区役所前で献血アクティビティを実施。ここでひったくりカバーを配れば、相互に効果向上が見込めるだろう（実際、今回の献血は例年の2倍の採血量だった）。ライオンズだけでは手が足りないので、西成区家庭人バレーボール連盟、区役所職員、西成警察署員と、地域一丸となって、「ひったくりに気をつけて」と呼び掛け配布した。

自転車の前カゴからのひったくりは多発している犯罪だが、ネットを取り付けるだけで防止に大いに効果があるという。地域の防犯に役立ちたい。全住民にカバーが行き渡るまで続けるつもりでいる。

（会長／古本隆一）

神奈川県・横浜ライオンズクラブ

「ヨコハマ関外ジャジー・フェス」開催

世間では大通り公園といえば札幌と思われるだろうが、今年開港150周年を迎えた横浜にも、昭和53年に開園した全長1・2キロ、幅30メートルの横浜大通り公園がある。

その公園入口近くロダンの広場で10月24日、横浜ライオンズクラブ（25人）は新井宏次第1副会長を実行委員長に、「第1回ヨコハマ関外ジャジー・フェス」を主催した。ジャズ、ラテン、ブルースと3カ所でブースを設けての演奏の他、地元アーティスト、写真家らの作品展示、もちろん奉仕活動の㈶アイメイト協会への募金活動として盲導犬との体験歩行による活動も、時折降る小雨をものともせずに行われたのである。

当クラブが今期実施したアクティビティはこれで3回目。1回目は8月に行われた横浜開港150周年での事業。

横浜市の要請を受け、大通り公園納涼ビアガーデン祭の開場前に、公園内の清掃と打ち水をした。メンバーが一生懸命に活動する姿を見て近隣の方々が感心され、「こんなことまでされているのですか?」と声を掛けてくださった。行政と住民に対するパイプ役が果たせ、かつ広報も出来たと思っている。

2回目は10月4日の合同奉仕デー。第1リジョン第1ゾーンの有志クラブが集まり、横浜市の水源でもある山梨県の道志村の山林に入り、インストラクターの指示の下、間伐作業を行った。参加したメンバーは、「体験学習をしながらの奉仕活動で大変意義があり、環境問題について勉強出来た」と述べている。

これからまだ、二つのアクティビティがある。当ゾーン内のトップ・クラブという自覚を持って、更なる奉仕活動に努めていきたい。

（会長／金子幸男）

岐阜県・美濃加茂あじさいライオンズクラブ

ボウリング大会、音楽を楽しもう!!

美濃加茂あじさいライオンズクラブ（29人）は10月25日、1991年のクラブ結成以来毎年行っている継続事業、福祉交流会を開催した。本年度は「ボウリング大会、音楽を楽しもう!!」と題し、最初は市内にある太田OSボウルでボウリング大会、次にシティホテル美濃加茂に会場を移して音楽を楽しみ、その後、食事会となった。

事業の目的の一つは、障害児・者とその家族に外出の機会を提供し、さまざまな人と交流し楽しい1日を過ごしてもらうこと。もう一つは、ボランティアとして参加した高校生が、活動を通して障害者のことを正しく理解出来るようになること。市内の4校から18人の学生が参加してくれた。

当日は、可茂地区肢体不自由児者父母の会30人、美濃加茂市心身障害児者親の会「きらきら星」20人、音楽療法士5人と、前述の高校生とライオンズ・メンバーの計95人が集った。

ボウリング大会では、車いすの人や立つことが困難な人も、ボールを転がすボウル台を使ってボウリングを楽しみ、会場では拍手と大歓声が止むことはなかった。

その後、音楽療法士の指導で、キーボードやハーモニカに合わせて歌ったり、マラカスやベル、オカリナなどの楽器を鳴らしながら歌ったり、ポンポンやスカーフを持って体を動かすなど、みんなで音楽を楽しんだ。

最後はまたボウリング大会のグループになって、和気あいあいと食事をした。いろいろな障害を持った方やご家族に参加して頂き、大変喜んで頂けた。我々にとっても有意義な一日となった。（会長／板津徳次）

福井ライオンズクラブ

「子は日本の宝・福井の宝」文芸祭

快晴の10月25日、福井ライオンズクラブ（名部井信介会長／78人）は、今回初めての企画となる「子は日本の宝・福井の宝」文芸祭を開催した。子どもたちは学校や習い事でさまざまな技を磨き趣味を掘り下げ、すくすくと成長している。しかしスポーツと比べて文芸面は発表の場が少ない。ならば我々がその機会を提供しようということになったのである。

幼稚園児から高校生までの331人が集まり、日頃の成果を披露した。「神事の舞」から、バレエ、剣詩舞、合唱、ハープ演奏、手品、全国一の和太鼓、全米大会金メダルのチアリーダーによるマーチングバンド……。市民の関心も高く、出演者、来場者の総数は900人を超えた。

また、現代の子どもの心を理解しようと、「国民文化祭・ふくい」の俳句大会における小・中・高校生の特選句17句をスクリーンに大きく映写。「けしゴムが小さくなった夏休み」、「ばあちゃんのタケノコご飯元気わく」の句には、拍手が起きた。

最後は会員の持ち寄り品を賞品に、600人による「じゃんけん宝引き大会」で会場を大いに揺るがし、幕を閉じた。

このアクティビティは、県や市の教育委員会、各種メディアにも取り上げられた。子どもの成長の後押しが出来たと満足している。（幹事／石川弼美）

大阪府・豊中ライオンズクラブ

体験農園奮闘記

豊中ライオンズクラブ（52人）の昨年度会長ライオン山田吉春が、「農園をやろうよ」と言い出した。「環境を考え、自然に触れ合う」がテーマの、子どもたちのための体験農園。が、場所は？　農機具は？　何を植える？　お金は幾らかかるの？　何と言っても農業経験のない経営者軍団である。はたと止まってしまった。そこに市が300坪の土地を2年間無償で提供してくれるとの朗報が入った。更に農機具の貸し出しと共に農業指導をしてくれる方も現れた。無農薬栽培で自然に優しい農園作りが始まった。

荒れ地の草刈り、耕作、堆肥撒き、畝づくり……。2008年秋に苗を植え、農園通いの日々。カラスの軍団にビニールシートが破られた。タマネギの苗が食べられた。寒風の中での見回りだ。09年春、雑草の中から芽が出てきた。エンドウ豆は伸びていく。ジャガイモがシートを持ち上げ始めた。

収穫の第1号はイチゴ。2週間後、エンドウ豆。毎日のように婦人部隊が子どもを連れて楽しそうに集う。近隣の身体及び知的障害者授産施設3カ所の生徒に収穫体験をしてもらった。野菜は施設の給食に。また、例会ではテール・ツイスターの手腕で販売しドネーションを獲得。

5月31日は収穫祭。豊中市内小学校の児童、父兄、教員を招き、ブラザー・クラブ（豊中千里、北摂ローズ）も参加して、ジャガイモを収穫、ジャガバターやとん汁を300人で楽しんだ。さて、すぐに畑を田んぼに切り替えて田植え。あとは稲刈りまでは見てるだけ。が、スズメの集団に襲われたり、台風で稲が倒れたり波乱万丈。10月に入ると田んぼは一面見事な黄金色となり、稲穂は予想以上にたわわに実った。10月16日、小学生を招いての稲刈り体験となった。

もち米180キロ、コシヒカリ360キロを収穫した。年末には小学校の餅つき大会にこのもち米を進呈する。コシヒカリは施設に配り、残りをメンバーが購入してドネーション。

そして田んぼは再び畑に。11月から畝作りと植え付けが始まる。農業を通してクラブの結束は更に強まっている。来年度は結成50周年。これからもクラブが未来へと発展していくことを希望してやまない。　（会長／細内喜太郎）

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
改訂版
第3版第1刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第1刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第3刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号をお忘れなく。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部
●ウィ・サーブ …………　部
●ライオニズムよ永遠に …………　部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領→56ページ

私とイモリとライオンズ 父が残してくれたもの

小野 早苗（栃木県・小山城南）

私のライオンズ入会は今から5年前、衝撃のあいさつから始まった。

「私は現在53歳のバツイチでなくてマルイチの女です」

仲間のライオンは大笑いした。会員数18人。その中の女一人である。中には最初から、女じゃないだろうと言って笑う人もいた。

そんな仲間に囲まれて、私は例会を楽しく、そして欠席を少なくを目標に今までやってきた。入会してから3回も店を替えて、自分の生きる場所を探しながら、ライオンズに仕事にと明け暮れる日々であった。私にとって唯一心が癒やされるのは、ライオンズのメンバーの笑顔であり、例会でもあり、勉強の場を与えてくれたことである。

私は現在、小さな5坪の店で理容を営んでいる。自己紹介を黒板に掲げて、完全予約制、不定休、営業時間は無制限。休むのはライオンズと少しの自分の時間だが、予約制なので、上手に活動し、休んでいる。

３軒店が替わっても、今度が最後だろうと言いながら来てくれているお客様が50人近くいる。こういった人々に励まされて、私は今、もうすぐ60歳になる自分を楽しく謳歌して生活している。さまざまな出会いの中で笑い、泣き、励まされ、幸せな日々に感謝している。そんな中で、いつも私の近くにいた存在はイモリと父である。

イモリは居場所を守り、私をずっと見守ってくれた。22年育てているが、本格的にイモリの動き、性格を見きわめることが出来るようになったのはここ数年である。生き物も人間も、皆、環境づくりで性格、生き方も変わると私は思う。

そしてこの前、初めて新聞でイモリの床屋として紹介され、やっと世に出たイモリたち20匹を、私はよく仲良く生きていてくれると心から愛しく思う。

「果報は寝て待て」

いつも父が口癖のように言っては私を励ましてくれていた言葉だ。どんなに辛くても苦しくともじっと待っていれば、必ず良いことがあると、いつも前向きな考えで私を支えてくれた。その父も2年前の４月１

イラスト／小川和政

日に亡くなった。優しくて楽しく面白い父で、亡くなった日もエープリルフールで、私の心の中でいつも生きている。私は心から父を尊敬していた。

17歳で志願して10年間戦争に行き、片足を失って帰って来た。そして母と一緒になり私たち子どもが生まれた。父は戦争を憎まず、戦争があって多くの人と出会い、そして今の幸せがあり、「60歳からの人生は付録だ」と言って、88歳の米寿まで生き、天寿を全うした。

その父の告別式に、私は最後に娘らしいことをしてあげたいと思い、『同期の桜』を花むけに、ひとり口ずさんだ。出席してくれた方々が次第に唄い始めて合唱となった。今でも思い出すと胸が熱くなる。

そんな父の生き方を見て来て、私は父親物語『一本足のかかし』を原稿用紙32枚につづり完成させた。このことで父を亡くした悲しみから、感謝の気持ちに変わった。自分の転機を知り、勇気をもらい、生きる力を父からプレゼントしてもらい、現在、父の愛した詩吟まで出来るようになった。

「魁よみがえる」

父はこの言葉が好きで、やり直しはいつからでも出来る。がんばれ、といつも優しく励まし背中を押してくれた。それも皆、ライオンズ、そして多くの人々との出会いの中で生かされてきた自分があったからこそ、今ここに幸せを感じることが出来るのだと私は思っている。そして今期、私は会長を引き受けて、一生懸命、楽しくライオンズ精神でやっている。

おまけに私は、イモリそっくりな人と再婚した。これもすべて感謝である。

これから長い秋の夜が訪れる。皆様も健康に気を配り、楽しく、そして奉仕の心、ライオンズ精神で生きていきましょう。

「亡き父に　贈りし唄は　旅立ちの　戦後を生きた　同期の桜」

「桜散る　うぐいす鳴きて　ゆく春の　父を偲んで　ひとり寝る夜は」

施設の「孫」はハニカミ王子

森 一男（北海道・サッポロシニア）

子どもが、年ごとに成長する姿を見るのは、うれしく感動的である。

児童養護施設「札幌育児園」で生活している小学校2年生の松山瑞樹（みずき）ちゃん（仮名）と出会ったのは、6年前である。当クラブと、当クラブがエクステンションした札幌コスミックシニア　ライオンズクラブの合同アクティビティとして、施設の子を札幌円山動物園に招待した。

まだ3歳だった瑞樹ちゃんは、象やキリンを見ながら、「だっこ。だっこ」とせがんだ。ちょうど、腰を痛めていた時で苦痛ではあった。

昼食を仲良く一緒に食べ、園の車で帰る時だった。車内で運転席をバタバタと蹴り、泣き出した。

「森のおじちゃんと別れたくないんだ」

そばにいた女性メンバーが、もらい泣きした。「肉親のぬくもりに飢えているのかなー」と思った。瑞樹ちゃんと短時間だったが、心が触れ合い、シニアライオンズクラブの会員らしく、「人生経験を生かせた」とうれしかった。

4歳になると、スタスタと歩き、動物舎を次々に見て回った。抱っこはせがまれず、1年で随分、成長したなとの印象を抱いた。

5歳になると、動物園内でトンボやチョウを追い掛け回した。転ばないかと心配だった。草をむしり、エゾ鹿の口元まで運んだ。泣き虫は、驚くほど度胸がつき、行動

的になっていた。
当クラブは年に3回、育児園と交流している。8月に動物園への招待、9月には洞爺シニア農園の収穫祭に招待、9月か10月の育児園祭への参加である。
農園は、北海道・洞爺湖サミットが開かれた会場に近く、秀峰・羊蹄山を遠望する風光明媚で肥沃な地にある。瑞樹ちゃんとは、農園でバレイショ拾いやトウモロコシもぎを楽しみ、ジンギスカンを食べて温泉につかった。
屋外で開かれる園祭では、毎年再会し、2009年は9月27日に共有のひと時を過ごした。園祭で小学生の出し物は、沖縄の「エイサー」だった。赤い布をターバンのようにクルクル巻いてかぶる。黒っぽいジュバンに半ズボン。職員の手づくりだ。
太鼓を力強く叩きながら、リズミカルに踊る。25人の輪の中心に瑞樹ちゃんがいた。堂々としている。イケメンで口数の少ないハニカミ王子が、たくましく映った。
園祭の最後に、園児が全員で、「笑顔のまんま」を合唱した。
「ひとにやさしく　やさしくされて　ささえながら　あすをむかえる」
澄み切った秋空に、元気で明るい歌声が広がった。

その後、心の里親会が主催する09年秋の美術展で、瑞樹ちゃんはカブトムシの絵で優秀賞に輝き、自信を深めている。
私は、横浜に孫娘が2人いる。瑞樹ちゃんは、札幌の孫である。このまま順調に成長してもらい、結婚式には出席したい。私は71歳。20年後として、91歳。生きているか、いささか自信はない。
私のいちばんの夢は、瑞樹ちゃんが働くようになったら、ライオンズクラブの会員になって、奉仕活動をしてくれることだ。
「シニアのおじちゃんに世話になったから恩返しをしたい」
エバハルト・J・ヴィルフス国際会長のテーマ「MOVE TO GROW」の一つの姿である。

「私のライオンズ」終焉の記

林　英男（宮崎オーシャン）

私とライオンズとの出会いは1960（昭和35）年4月、この地に初めて結成された宮崎ライオンズクラブのチャーター・メンバーとして始まりました。その後、宮崎中央、宮崎サンの2クラブをエクステンションして、いずれもチャーター・メンバーとなり、最後に現在のクラブに転籍して今年で49年目を迎えました。この間、これらすべてのクラブ例会に皆出席し、一昨年、晴れて千回例会皆出席を達成致しました。

また昨年度は、当クラブの会長を拝命し、これが最後のご奉公と張り切った矢先、年度早々の7月末、不慮の火災により自宅を全焼、私自身も救急車で病院に収容され応急手当を受けました。が、幸い約3週間で傷も癒えて無事退院を許され、再び現役に復帰することが出来、現在に至ります。

この火災により、私の80余年にわたるこれまでの全生涯の記録と私財のすべてを焼失しました。中でも入会以来50年近くにわたり鋭々と集積されたライオンズ関係資料のすべてを焼失したことは、私にとりましては何とも言葉には言い表せない痛恨事であり、掛け替えのない「宝物」を失ってしまいました。

今その主なるものだけでも挙げてみます。

①入会以来今日まで48年間の『ライオン』誌全570余冊。（この中には「獅子吼」ほか、私の投稿掲載誌7冊を含む）

②『ライオンズ必携』1963年7月発行初版本以降第47版までの全冊。

③国際大会、東洋・東南アジア・フォーラム、各複合及び地区年次大会資料他、全国各地クラブのチャーター・ナイト○周年記念誌約100余冊。

④入会以来の4クラブ例会報、約千余冊。

⑤韓国・ソウルのクラブとの姉妹提携、相互訪問の記録と記念品。

⑥入会以来、各年国際協会から届いた100%出席アテンダンス・ピン（中でも初期のものは、その年の国際会長の出身州の形をした希少品）と5年ごとのチャーター・モナーク・シェブロン（現在有料頒布）

⑦国際協会他、地区及び国内外からの各種アワード・ピン及びクラブ記念バッジ、バナー等約200余点。

⑧銀製ライフメンバーズ・カード（終身会員証）及びメルビン・ジョーンズ像大型メダル他大小ライオン像多数。

⑨国際協会及びガバナーからの感謝状、表彰状と記念品。

⑩入会以来の記念写真アルバム40数冊。この中には1981年11月、当宮崎市において開催された全国ライオネス・フォーラムの際、村上薫国際会長（当時）を迎え、ライオン誌編集部の大饗美行氏と共にその全容を密着取材した、その時の記録と、今は亡き村上国際会長とのツーショット等、貴重な写真多数。

――等々逐一枚挙にいとまも無く、今となれば、それはまるで死児の齢を数えるに等しく空しいものになってしまいました。

かくして半世紀にわたり鋭々と集積温存されてきた「私のライオンズ」は、ここにそのすべてを消滅し、終焉の時を迎えました。

しかし来年、ライオンズクラブ在籍50年を迎える私は、これまでの記録を中断することなく、更に新しいウィ・サーブの道を模索しながら、再出発することを固く心に誓いました。

国際会長公式訪問記　熱く硬い握手

青木　諠（北海道・函館）

ミネアポリスで2回、千歳空港で1回、翌日のセミナーで1回、晩餐会で3回、お見送りの千歳空港では、私の目を見つめ手を握り締め、更に左手を添え「センキュー、ミスター・アオキ、センキュー」と発音されたと思う。

ミネアポリスでは全く印象にあるはずはない。しかし札幌では対面の場が多く、胸章も付けていたので、青木という認識はあったと思う。

あの温かく感情移入された握手は、私がライオンであり続ける以上、一生の宝として胸に収めておきたい。

エバハルト・J・ヴィルフス国際会長と私とは、合計8回の握手を交わした。7回目までは普通の儀礼的な握手であったと思う。だが、千歳空港で見送る私に差し出した手のひらと柔和な笑顔には、親愛の熱く硬い意志が込められていたように感じた。

私は一瞬、歓喜の感情が突き上げ、うるうると目頭が熱くなり、うろたえた気がする。

国際会長は最初の公式訪問国を日本に求められ、札幌を希望されたようだが、希望された日はあいにく日曜日で、札幌市内のホテルを当たってみたものの、広い会場の手配がつかなかった。そのため最初の訪問地は福岡に決まり、次の月曜日に札幌を訪問されたと聞く。

千歳空港にお迎えに行ってから、千歳空港でお見送りするまでの3日間、国際会長ご夫妻とほとんどの時間を共有した。

2日目は高橋はるみ北海道知事を表敬訪問、更に札幌市長も表敬訪問された。

東京以北の現、元国際理事、地区ガバナー、キャビネット三役、委員長など400余人が札幌に集まり、国際会長のセミナーが行われた。

2時間、全く休息もなくマイクを握り締め、「『MOVE TO GROW』。私たちライオンズは夢、計画、そして行動を広げていかなくてはなりません。さもなければ私たちは消滅してしまうのです」と精力的に話をされ、更なる会員の増強を強く熱く訴えられた。

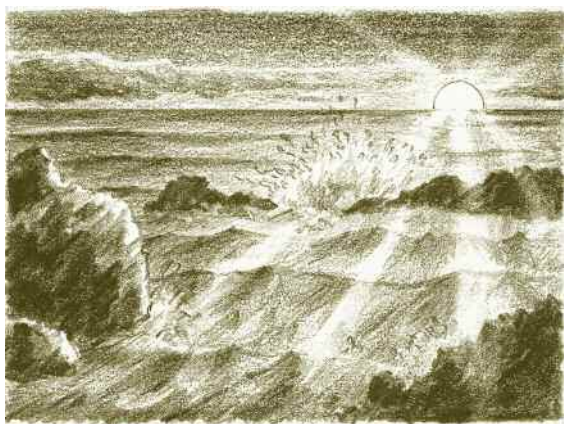
銀杏の木は世界中に分布し、しかも1千年もの長い間、緑の葉を茂らせている樹木はほかにはない。銀杏の木のようにライオンズクラブの奉仕の精神は次世代に、そのまた次の世代につなげてゆかなければならない。

晩餐会ではお疲れの様子も見せず、精力的に40以上のテーブルを周り、ご夫妻で記念写真に収まっていた。

北海道は自然が豊かで青空が澄みわたり、空気がおいしく、新鮮な魚介類・果物・野菜がおいしく、何より住んでいる人々が親切で温かい。

ハードなスケジュールで気ままな観光も出来ず、おいしい食べ物を味わう時間も無く、お気の毒な札幌訪問であったのが、私はいちばん悔やまれてならない。

いずれご夫妻で北海道に来られる機会があったなら、函館にも足を伸ばして頂きたい。その節は誠心誠意ご案内する所存だ。

札幌の印象が国際会長ご夫妻の今後のご活躍の糧になることをお祈りし、公式訪問の感謝を込めた報告とさせて頂く。

Close up

長年培った職人技を駆使し、電気自動車を自作。

■阿部幸平

あべ・こうへい　1937（昭和12）年3月2日、新潟県燕市生まれ。79年10月燕ライオンズクラブ入会。2000年度クラブ会長。07年度333-A地区青少年指導・レオ育成・ライオネス委員長。09年度チャーター・ナイト50周年事業部会部長。腕時計G-SHOCKの裏ぶたなどの金属プレス加工を手掛ける(有)阿部製作所代表。72歳。

2月（2009年）に東京ビッグサイトで開かれた「国際水素・燃料電池展」を見に行って、電気自動車に興味を持ったんです。それで、これからはエコの時代だと思い、何冊か関係の本を買い求め、家に帰ってからもそれを読んでいました。その後、インターネットでも情報を集めてみたところ、電気自動車を自作している人が結構いることが分かりました。日本EVクラブというのもあって、そこで作り方や部品についての情報を得ることも出来ました。

これなら自分でも出来そうだと思って、中古の日産マーチを買ってきて、それを改造することにしました。それが5月のことです。ただ、ボンネットを開けた途端、「あちゃ〜っ」と思いました。今の車は電子部品が多く、どこから手を付けたらいいのか、見当がつかないんです。2、3日は、ただぼーっと眺めているだけでしたね。そこで、以前から親しくしていた関根自動車の社長（ライオン関根忠三郎／巻ライオンズクラブ）に相談し、まずはエンジンやガソリンタンク、ラジエーター、マフラーなどを取り外すところから始めました。

後部座席とボンネット下に合計9個の鉛電池（1個24キロ）を搭載。今後の課題は電池の軽量化だという

ここからいよいよ改造に移るわけですが、電気モーターやバッテリーなどの部品は、日本EVクラブを通して入手出来ました。ある一個所を除いては作業も比較的簡単でした。もっとも、その一個所が、肝心な部分なんですけどね……。なんせ、電気モーターのシャフトとミッションのシャフトの芯が寸分の狂いもなく、ぴったりと収まらないとうまくない。しかし幸い、私の会社は腕時計の裏ぶたや自動車部品などを加工する仕事を請け負っていて、そのための機械はそろっているわけです。そこで、自分が磨いてきた技術と時間を費やして、納得いくものを仕上げることが出来ました。

完成後、相談に乗って頂いた関根さんをお呼びし、仮ナンバーを付けて走らせてみました。アクセルを踏んで動いた瞬間は、本当に「バンザーイ!」という感じで、二人して感激しました。その後、新潟の陸運局へ持ち込み車検をパス、晴れて公道を走れるようになりました。いろいろ試したところ、最高時速は80キロ、走行距離はフル充電で20キロですが、電気自動車にもエコ運転は有効なようで、うまくすれば25キロ程度は走れます。費用は中古車代も含めて約100万円。ホント楽しかったですよ。

写真／田中勝明　構成／鈴木秀晃

シゲル工業
EV

ippin おすすめの

第5回　北海道名寄

◉

なよろバーガー

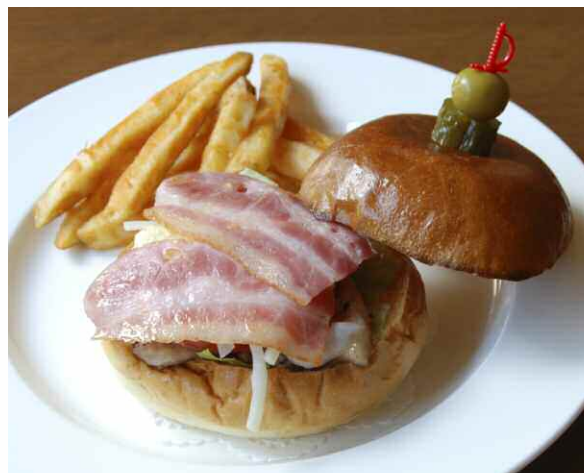
長崎県佐世保市の佐世保バーガーが火付け役となり、最近、「ご当地バーガー」がプチ・ブームになっている。それも地元食材を使い、地域おこしを目指す取り組みが多い。今月のippin北海道名寄市の「なよろバーガー」もその一つだ。

なよろバーガーは、作付面積日本一のもち米「はくちょうもち」でバンズを作り、やはり名寄名産のアスパラを使うことが必須になっている。もともとは名寄商工会議所青年部が、イベント用に作ったジンギスカンバーガーがきっかけで、その後、ご当地バーガー企画に発展。2008年12月の地産地消フェアでデビューし、現在、5店がオリジナルのなよろバーガーをメニューに載せている。

まちづくりなよろ観光協会理事として、夏祭り担当実行委員長、雪質日本一フェスティバル事業委員会副委員長などを務めるナビゲーターは、イベントの度になよろバーガーを食べているという。そんなナビゲーターが案内してくれたのは、名寄の市街地にあるグランドホテル藤花。お目当ては、ここのレストラン「ビビンカ」のSPF豚肉バーガーだ。

名寄産SPF豚のバラ肉を、特製のタレに一晩漬け込んでからローストしたもので、肉が柔らかくてジューシー。更に地場産の玉ねぎ、レタス、トマトを使い、カリカリのベーコンを添えている。

ナビゲーターが後で明かしたところでは、実はビビンカのものしか食べたことがないそうだが、他店では「軟骨つくねきんぴらバーガー」や「炙りチャーシューバーガー」など、ネーミングからして今流行のB級グルメのニオイが漂うご当地バーガーが、ラインアップされている。

さて、バンズに使われている「はくちょうもち」は白度（白さの度合い）が高く、真っ白な色合いから命名されたもち米で、冷めても軟らかさや粘りが長持ちするのが特徴。セブンイレブンなどのコンビニで売られている赤飯おにぎりや、伊勢名物・赤福も「はくちょうもち」を使用しているので、皆さんも一度は口にしたことがあるかもしれない。

●今月のナビゲーター

村山聡

北海道・名寄ライオンズクラブ。2002年入会、今年度クラブ幹事。まちづくりなよろ観光協会の理事を務め、なよろバーガーにも当初からかかわっていた。㈲東洋社代表取締役。

ふるさと探訪

千葉県成田市

護摩の炎に願かけて、新年めでたし成田お不動参り

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

ガイドと歩く成田山散策

正式名称は成田山明王院神護新勝寺。真言宗智山派の大本山として知られ、不動明王を本尊としていることから、「成田のお不動さん」の名で親しまれている。正月には家内安全や交通安全を祈る護摩祈願のために多くの人が訪れ、その様子は毎年のようにニュースで放映されているのでご存じの方も多いはず。今回は関東地方有数の参詣客を集めるこの寺を、ボランティアガイドの説明を受けながら散策する。

成田ボランティアガイドの会の上川克巳さんとは、新勝寺の入り口にあたる総門の前で待ち合わせた。あいさつが済むと早速、お寺の説明が始まった。

「新勝寺開山の契機は平将門の乱にまでさかのぼります。天慶3（940）年に朱雀天皇から乱を平定する密勅を受けた寛朝大僧正が、京都の神護寺にあった弘法大師手彫のお不動様をこの地に持って来ます。21日間と日数を定めて護摩の火を焚き願かけしたところ、ちょうど21日目に将門の首が落ちて乱は治まった。以後、この地に東国鎮護の霊場として成田山が開山されました。

境内の広さは約5万坪。関東を代表するお不動さんである

1日に少なくとも5回は護摩が焚かれ、その度に本堂へ向かうお坊さんの行列が見られる

寺号は『新たな』敵である平将門に『勝った』ことに由来しています」

慣れた調子で話した後は、2007年に新築された真新しい総門をくぐり次なる仁王門へと移動した。現存する仁王門は江戸末期に建てられた総ケヤキ造り。国の重要文化財に指定されており、同じケヤキ造りの総門と比べても施されている装飾は明らかに手が込んでいる。さぞかし由緒ある門に違いないとくぐろうとしたところ、ガイドの上川さんは門をくぐらず脇へ逸れた。上川さんが指さす仁王門の側面には、一本の角と蹄を持った想像上の動物、麒麟の彫刻がこちらを向いていた。

「麒麟は石や土を食べて生きると言われています。だから虫一匹草一本、生きとし生けるものは絶対に傷つけない。つまり平和のシンボルなのです」

日光の東照宮で使われだしてから、麒麟は関東一円の神社仏閣で多用された。内乱の時代から平和な江戸の世が訪れ、もう二度と戦乱の世には戻りたくないという当時の人々の気持ちが込められているのだという。

成田山、参詣客の今昔

成田のお不動さんが隆盛を極めたのは江戸中期。要因はいくつかあるが、「成田屋」の屋号を名乗った歌舞伎役者、市川團十郎の影響力は計り知れな

いものがある。初代團十郎の父が新勝寺のすぐそばの出身だったこともあり、成田山と歌舞伎界は深くて強い縁で結ばれている。

　初代團十郎はお不動さんの霊験をテーマにした歌舞伎を打つようになり、これが江戸庶民の間で大ヒット。街じゅうで成田のお不動さんが話題となり、江戸からわずか16里、3泊4日で行き来出来るという気軽さも手伝って、文化文政期（1804～1829）には庶民の間に成田詣が広がった。団体旅行のルーツ「講」を組んだ地域の代表者たちはここを訪れ、地元で集めたお金を寄進し、人数分のお札をもらい受けて帰路についた。境内には今でも歌舞伎にゆかりのある灯篭などを見ることが出来る。

　そんな江戸の庶民に思いを馳せて辺りを見回したが、目に入るのは外国人の姿ばかり。すぐ近くの成田国際空港を利用する人々で、その多くはこの後日本を発つことになる。最後の思い出にとここを訪れるのだ。上川さんから面白いエピソードを聞かせてもらった。

　1週間、京都観光をした外国人が、空港で飛行機を待つ時間があまりに長かったため、時間つぶしに成田山を訪れることになった。ガイドが「護摩があるから案内しよう」と誘うと、「神社仏閣や宗教はもうたくさんだ」という。それでも本堂へ連れて行き、護摩が焚かれた火のそばに座らせると、食い入るように炎を眺め始めた。

「皆お願いごとがあってここに座っているのだ」と説明すると、なんとその外国人も火に向かって拝み出したのだ。護摩が終わって本堂から出てきた外国人曰く「今のこの宗教体験が、今回の日本滞在のハイライトだ」と興奮しながら話したという。

「特にトランジットで寄っただけの外国人にとっては、ここでの体験がそのまま日本のイメージになります。だから気も抜けないし、やりがいもある」

　と上川さん。現在、ボランティアガイドは48人。英語はもちろんスペイン語を話すガイドもいる。それぞれが自分だけのネタを持っていて、自分だけのやり方で成田山の魅力を伝えるのだが、ガイドには一点だけ共通点がある。皆しゃべり好きなのだ。「2時間でも3時間でも話すネタはいくらでもある」というから、ご利用の際は、先に時間を知らせておくことをお勧めする。

うなぎを扱う店は参道に50軒以上あるという

店先でうなぎを捌くところが見られる（取材協力／川豊）

参道は知る人ぞ知るうなぎの名所

　JR成田駅から成田山総門に至る1キロに満たない参道のあちらこちらで、成田名物の看板やのぼりを目にした。筆頭格の一つが栗蒸し羊羹。もともと成田山の精進料理の一つであったものが、後に土産として売られるようになった。くり抜いた瓜の中にシソの葉を巻いた青唐辛子を詰める鉄砲漬けも成田土産の定番。瓜を砲筒、青唐辛子を玉に見立ててこの名が付けられた。

　この2大名物にも増して目立つのが「うなぎ」の文字。江戸期には、近隣

の印旛沼や利根川で穫れた天然ものを生きたまま店頭のいけすに移し、参詣客が直接選んだものを捌いた。焼き上がりを待つ間に鯉や鮒を肴に杯を傾ける酔客の姿は、参道のうなぎ店でよく見かける光景であったという。

明治43（1910）年創業の川豊（ライオン）伊藤栄二：成田ライオンズクラブは、現在も生きたうなぎを店頭で捌く参道のうなぎ専門店だ。取材に訪れた日も、自在に包丁を操る小気味よい仕事を、通りからのぞくことが出来た。先客の外国人が不思議な顔でこの風景を眺めているのが印象的だった。

「ひと昔前は、もの珍しさから一つのうな重を大勢でつつく外国人が目立ったが、最近はそんな光景はほとんどなく皆さん普通に召し上がっています。日本食が海外でも認知されてきたのかもしれません」

と、川豊の伊藤小澄さんは話してくれた。

5年ほど前から観光協会が中心となって、「うなぎの街・成田」をPRしてきた。夏の土用の丑の日を境に前後半月の間、「成田うなぎ祭り」が開催されるようになってからは、参道のうなぎの認知度は「うなぎ上り」とまではいかないが、着実にファンを獲得している様子である。

土産物屋などが軒を連ねる成田山への参道

郷土自慢・クラブ自慢

成田ライオンズクラブの郷土自慢は、成田山への参道でひときわ目立つ望楼を掲げる「大野屋旅館」（ライオン大野卓正：成田ライオンズクラブ）。創建昭和10年の3階建ての建物は、文化庁の登録有形文化財に指定されている。今でこそ東京から電車で1時間半もあれば成田に着くが、江戸時代に成田詣がはやった頃は、当然日帰りは無理。参道には旅館がひしめき合っていた。泊まり客の目当ては一番護摩。現在も10～3月までが6時、4～9月までが5時半にその日最初の護摩が焚かれる。ちなみに交通の便が良くなった今では、朝4時半に東京を出ると一番護摩に間に合う。そんな事情もあって旅館としての役目を終えた大野屋旅館。現在は、食事処として参拝客をもてなしている。

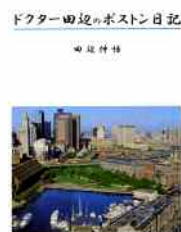
▼成田ライオンズクラブ（徳田進会長／56人）＝1965年4月12日結成／スポンサー：市川ライオンズクラブ

読者プレゼント

純米酒「ゆきわらべ」を5人に

「i·pp·in」(50ページ)で紹介した北海道・名寄産のもち米「はくちょうもち」を使った純米酒「ゆきわらべ（300ミリリットル2本セット）」が、名寄ライオンズクラブ（藤田忠一会長／36人）から5人の読者にプレゼントされます。

広大な大地と澄んだ空気の中で出来た「はくちょうもち」は低農薬で、品質も非常に高く、和菓子の原料としても高い評価を得ています。「ゆきわらべ」はこのもち米を使い、100余年の酒造歴を持つ旭川の高砂酒造が、大雪山の水で仕込んだもち米純米酒です。

『ドクター田辺のボストン日記』を5人に

田辺伸悟ライオン（高知県・土佐香南ライオンズクラブ）がアメリカ・マサチューセッツ州ボストンのハーバード大学医学部基幹病院で研究生活を送った当時の日記をまとめた『ドクター田辺のボストン日記』（A5判40ページ）が5人の読者にプレゼントされます。

土佐香南ライオンズクラブ会報に連載されたもので、その貴重な体験記を多くの人たち、特に若い人たちにぜひ読んでほしいと一冊にまとめ発刊されました。

応募要領：はがきに「ゆきわらべ」「ボストン日記」といずれかご希望の品名を明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン（www. thelion-mag.jp/modules/inquirysp /index.php?op=0）からも応募出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は2010年1月末日。応募多数の場合は抽選。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

●訂正とお詫び

12月号「クラブ・リポート」36ページの札幌アカシアライオンズクラブは、正しくは札幌アカシヤライオンズクラブです。関係各位にご迷惑をおかけし深くお詫び申し上げます。

➡ライオン誌事務所来訪者芳名録

日付	クラブ	氏名
11/2	東京京橋	今井 三和
11/2	岩手県藤沢岩手	高橋義太郎
11/11	新潟県三条中央	石川 恵三
11/16	大分県豊後高田	安部 尚雄
11/16	福井県敦賀みなと	清水 直喜
11/16	東京三軒茶屋	藤村 貞夫
11/16	千葉県浦安中央	杉山 民生
11/16	千葉県野田	高木 次雄
11/16	千葉県野田	吉岡 稔隆
11/16	千葉県松戸ユーカリ	高橋 昌男
11/16	千葉県市川	吉原 稔貴
11/16	静岡県浜松南	辻村 昌弘
11/16	神奈川県横浜みなと馬車道	内海 香織
11/16	東京世田谷	進藤 義夫
11/16	東京世田谷	山本 康弘

ライオン誌投稿要領

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

■**クラブ・リポート**32～41ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■**獅子吼**43～47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

送付先：
〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

2010年2月号予告

THEME
海外クラブのアクティビティ

世界205の国と地域で恵まれない人々のため、よりよい社会をつくるために奉仕するライオンズ。海外ではどのような活動をしているのだろう？『ライオン』誌本部版が公式各国版から情報を得てまとめたアクティビティ記事を紹介する。

編集室

国際会長を日本から

ライオン誌
日本語版委員
◉
砂田繁雄
（長野県・大町）

本誌2009年9月号THEME「若手会員に伝えたいこと」に掲載された、村上薫元国際会長のメッセージを拝読し、81年に日本人として初めて国際会長に就任され、公式訪問で仙台にお出でになった時のことが思い出されました。その頃はまだ高速道路が完備されておらず、長野から10数時間かけて駆けつけ、ライオニズムの神髄に触れる情熱あふれるメッセージを拝聴しました。出席者は同じ日本人として国際会長に寄せる強烈な敬愛と感動を肌で感じて、改めてライオンズに対する誇りを心に刻みました。懇親会の席上では一人ひとりに声を掛けてくださり、がっちりした手で握手され、心に強烈な電流が走ったような感動を覚えたことを昨日のことのように思い起こします。その後、何回か国際会長公式訪問に出席し通訳を通してメッセージをお聞きしましたが、あの時のような感動はありませんでした。任期が終わって間もなくご逝去されたことは、日本のライオンズクラブにとって大きな損失でした。

　以来、国際会長を日本からと言われてきましたが、89年に小川清司国際第1副会長が志半ばにして亡くなられ、これまで28年間、その機会に恵まれておりません。昨年度は八複合地区の推薦を受けながら国際第2副会長が出せなかったことは、理由の如何を問わず、世界3番目の会員を有する日本ライオンズクラブとして極めて残念なことでした。その結果を見る限り、東京がオリンピック開催都市の選考に破れた構図に似ているように思えます。日本ライオンズを挙げた擁立運動の盛り上がりが欠如していたのではないでしょうか。

　日本から国際会長を送り出すことは会員の強い願望でありますが、その実現には長期的な準備が必要になります。日本のリーダーが協力して対策を立てることが急務と思われます。それに平行して会員の意識高揚を図り、全日本のメンバーが一丸となって日本から国際会長を送り出すことが渇望されています。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish,Indnesian and Thai.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

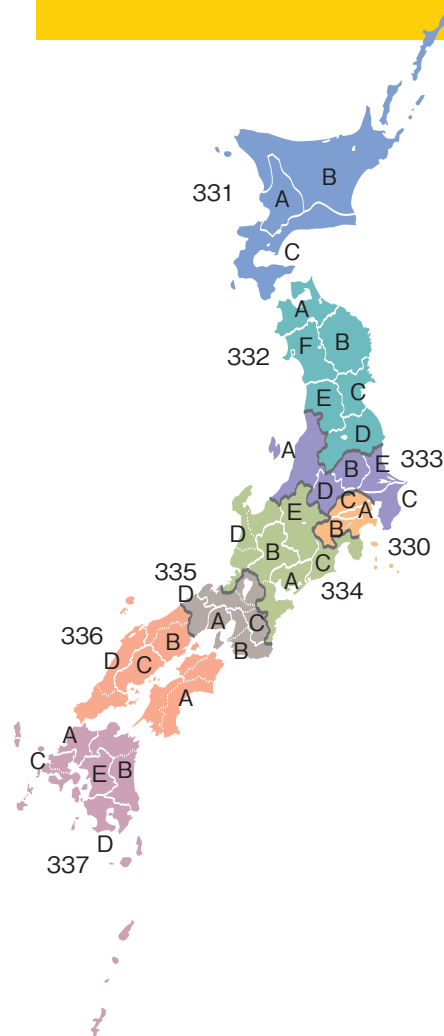
ライオン誌日本語版委員会
国際理事　杉本忠夫
国際理事　不老安正
委 員 長　大島康男（335複合地区）
編 集 長　瀧澤嘉門（331複合地区）
委　　員　秋山詔樹（330複合地区）
委　　員　坂本和彦（332複合地区）
委　　員　林　静誠（333複合地区）
委　　員　砂田繁雄（334複合地区）
委　　員　小田邦雄（336複合地区）
委　　員　塩倉安伸（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571（代）　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2009.10.31 ServannA報告による

地区	都道府県	■クラブ数	■会員数	(女性会員)	期首からの入会	期首からの退会	期首からの増減
330-A	東京	200	5,506	(806)	205	139	66
330-B	神奈川・山梨・東京	181	5,222	(519)	198	171	27
330-C	埼玉	102	2,649	(224)	76	56	20
330	計	483	13,377	(1,549)	479	366	113
331-A	北海道(道央)	77	2,670	(186)	101	68	33
331-B	北海道(道北・道東)	90	2,611	(104)	82	60	22
331-C	北海道(道南)	59	1,875	(168)	82	49	33
331	計	226	7,156	(458)	265	177	88
332-A	青森	68	1,869	(152)	58	36	22
332-B	岩手	54	2,166	(541)	80	23	57
332-C	宮城	79	1,490	(97)	57	44	13
332-D	福島	77	2,071	(169)	72	42	30
332-E	山形	58	1,892	(169)	51	44	7
332-F	秋田	51	1,356	(202)	32	27	5
332	計	387	10,844	(1,330)	350	216	134
333-A	新潟	79	2,909	(207)	85	61	24
333-B	栃木	57	1,502	(329)	115	17	98
333-C	千葉	133	3,511	(518)	104	119	-15
333-D	群馬	57	2,101	(260)	53	91	-38
333-E	茨城	82	2,955	(278)	80	61	19
333	計	408	12,978	(1,592)	437	349	88
334-A	愛知	121	5,641	(497)	178	100	78
334-B	岐阜・三重	85	3,882	(313)	123	66	57
334-C	静岡	83	3,278	(75)	120	88	32
334-D	富山・石川・福井	99	4,147	(231)	137	92	45
334-E	長野	53	2,147	(157)	51	29	22
334	計	441	19,095	(1,273)	609	375	234
335-A	兵庫(東)	105	2,768	(388)	55	53	2
335-B	大阪・和歌山	199	6,259	(665)	147	155	-8
335-C	滋賀・京都・奈良	121	4,225	(314)	135	89	46
335-D	兵庫(西)	67	2,144	(216)	61	39	22
335	計	492	15,396	(1,583)	398	336	62
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	155	5,930	(635)	191	165	26
336-B	鳥取・岡山	97	3,318	(259)	106	90	16
336-C	広島	104	3,823	(203)	117	88	29
336-D	島根・山口	102	3,341	(214)	127	101	26
336	計	458	16,412	(1,311)	541	444	97
337-A	福岡・長崎	117	4,628	(488)	167	75	92
337-B	大分・宮崎	79	2,449	(144)	92	57	35
337-C	佐賀・長崎	84	3,051	(402)	129	63	66
337-D	鹿児島・沖縄	82	2,519	(203)	150	100	50
337-E	熊本	56	1,636	(143)	56	41	15
337	計	418	14,283	(1,380)	594	336	258
総計		3,313	109,541	(10,476)	3,673	2,599	1,074
世界のライオンズの		7.3%	8.3%				

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2009.10.31 国際協会集計

ライオンズ国または領域	205
世界のクラブ数	45,696
世界の会員数	1,327,473
期首からの増減	8,542

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,701	371,866	-2,095
インド	5,682	180,864	5,400
韓国	2,038	84,343	1,378

ライオン誌1月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2009年（平成21年）12月20日発行　毎月1回20日発行　第52巻第7号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lionsclubs.org/JA/content/lions_lcif.shtml